保育者論	1年　　後期 卒必　幼必　保必	講義2単位	担当教員名	尾　崎　律　子

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育者の存在意義と専門性、その役割・使命について理解する。

② 目標　・　保育者の役割と倫理について理解する。

・　保育士国家資格・幼稚園教諭免許状の制度と根拠法を理解する。

・　保育士の専門性について理解する。

・　保育者の協働について理解する。

授業の概要

保育の現場は、子どもの保育を基本としながらも、保護者への対応や支援、小学校教育や地域とのつながり、特別なニーズをもつ子どもへのきめ細やかな配慮や援助など、保育者に求められることは多岐にわたる。子どもや子育て環境の変化に伴い保育者に求められる役割がどのように変わり、どのような専門性が求められているのかを理解し、保育者としてのあるべき姿を考え深めていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	保育者になるということ	・オリエンテーション　・「育てられる人」から「育てる人」へ
2	保育の本質	・保育とは何か　・保育者の子ども観・保育観
3	豊かな環境をつくるとは	・環境と保育　・子どもの生活を支える環境
4		・環境の再構成と活動の展開・発展　・保育の展開と評価
5	保育実践と保育者	・幼稚園における子どもとのかかわり　・保育所における子どものかかわり
6		・近隣幼稚園との交流（交流計画・実践・評価）
7	保育者の協働	・保護者との協働について　・保護者支援について ・地域との連携について
8	小学校の先生と連携する保育者	・幼稚園・保育所から小学校への段差とは　・子ども達の交流活動 ・保育者・教師間の連携
9	学び，成長する保育者	・保育者になるための学び　・専門性の向上 ・学び続ける保育者
10	保育者のキャリア形成	・幼稚園・保育所における保育者　・児童福祉施設における保育者
11	法令による責務①	・法令と保育者　・教育・保育の基本に関する法令　・免許状・国家資格の法令
12	法令による責務②	・保健安全に関する法令　・園内事故と保育者の法令的責務
13	歴史から学ぶ保育者のあり方	・保育者の誕生とその歴史的背景につていて
14	子育て環境と保育者の役割の変化①	・少子化と保育　・個別のニーズと保育 ・保護者支援について　・多様なニーズに対応する保育者への期待
15	子育て環境と保育者の役割の変化②	・子どもを取り巻く環境の変化と保育者に期待される役割 ・めざす保育者像　・これまでの学習のまとめ
定期試験	なし	
テキスト	榎田二三子・大沼良子・増田時枝『シードブック改訂　保育者論　第２版』建帛社	
参考図書	幼稚園教育要領解説・保育所保育所指針解説書	
教員の評価方法	授業態度（20%）、発表・小論文（30%）、課題レポート（50%）の総合で評価	
準備学習等履修上の留意点	授業内容の予習（1時間）、授業後の課題レポート作成（1時間）、発表のための準備（1時間）	

教育原理	１年　　前期 卒選　幼必　保必	講義２単位	担当教員名	小 松　督 記

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ　：教育の基本的概念、理念、歴史や思想、社会的事項、課題、学校と地域との連携、学校安全の理解

② 目標　１　教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。

２　教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。

３　教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

４　社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。

５　学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。

６　学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

授業の概要

教育の基本的概念、教育の理念、教育の歴史や思想、これまでの教育及び学校の営みの変遷について学習する。また、現代の学校教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身に付け、関連する課題を考える。さらに、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

授業計画

コマ(回)	項　　目		内　　容
1	Ⅰ 子どもの教育の基礎理論	教育とは何か	○人間形成と教育　○発達過程と個性　○子ども家庭福祉の関連
2		子どもの教育の今日的課題	○「生きる力」　○基本的生活習慣　○自尊心や有能感
3		家庭教育	○家庭教育の機能　○法制度　○家庭教育の現状と課題 （グループ討議）
4		学校教育	○学校教育の機能　○学校教育の法制度　○行政改革
5			○幼小連携　○保育者の専門性　○現状と課題（グループ討議）
6		社会教育と生涯学習	○社会教育と生涯学習の概念と機能　○法制度 ○社会教育・生涯学習の現状と課題
7		カリキュラム	○カリキュラムの捉えと類型　○教育の方法や指導法具体例 ○カリキュラム開発
8	Ⅱ 子どもの教育の歴史と現在	子ども観と教育観の変	○古代・中世の子ども観・教育観 ○近代の子どもの発見と教育可能性と権利主体としての子ども
9		世界の子どもの教育の歴史と現在	○学校の誕生とその歩み　○公教育制度としての学校の誕生と普及 ○現代の世界の学校
10		日本の子どもの教育の歴史と現在	○日本の教育の源流　○日本の近代学校制度
11			○大正期の新教育運動と昭和初期の教育　○戦後の教育制度
12	Ⅲ 子どもの教育のこれから	学校と地域との連携、学校安全への対応	○学校と地域との連携　○学校安全への対応（グループ討議）
13		子どもの教育とマネジメント	○教育の経営学　○子どもの教育と評価 ○ＰＤＣＡサイクルと子どもの教育マネジメントのこれから
14		子どもと教育専門職	○教育専門職の重要性　（今日的教育課題のグループ討議・発表）
15			○実践力の向上　（今日的教育課題のグループ討議・発表）

定期試験	前期試験で実施する。
テキスト	「子どもの教育原理」　北野　幸子　編著（建帛社）
参考図書	幼稚園教育要領解説（文部科学省）　保育所保育指針解説（厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
教員の評価方法	学習への関心・態度（２０％）、課題の取り組み状況（２０％）、定期試験（６０％）から総合的に評価する。
準備学習等履修上の留意点	毎受講後、授業内容を振り返り、与えられた課題や自己課題についての学習を深める。（週１時間程度） 次回の授業内容について、テキスト・参考書を中心に予習をし、授業の準備をする。（週１時間程度）

社会福祉Ⅰ	１年　　前期 卒選　　幼選　　保必	講義2単位	担当教員名	鈴　木　永　二

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育者に必要な社会福祉論について理解する。

② 目　標　　・社会福祉の理念を理解する。
　　・社会保障制度と社会福祉制度を理解する。
　　・社会福祉の実践内容について考える。

授業の概要

社会福祉とは、社会保障制度の一種類であり、保育者として重要な知識の1つである。社会福祉が制度化された歴史、思想、理念及び実際を学ぶことにより、社会福祉の実現に自ら参加していく意義と意欲を高めることを本講義の目的とする。社会福祉を学ぶことで、自身が社会福祉に参加していくことを促し、また実践例を学びながら保育者としての自覚をもつように講義を深めていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	国民の暮らしと 社会福祉１	･貧困の歴的経緯から，現在の貧困･格差及び孤立問題について
2	国民の暮らしと 社会福祉２	・子ども家庭や母子家庭，高齢者の現状と暮らしについて
3	国民の暮らしと 社会福祉３	･様々な障害をもつ人たちの現状と暮らしについて
4	国民の暮らしと 社会保障	･社会保障と社会福祉制度，民間における福祉活動についての現状と課題
5	社会福祉と 基本的自人権	・幸福追求権と生存権，社会福祉基礎構造改革について ・裁判所を通じた人権について
6	社会福祉の 発展過程	･社会福祉の発展過程について，相互扶助，慈善事業，救貧事業， 社会事業，厚生事業について
7	社会福祉・ソーシャル ワークの考え方	･社会福祉の政策論，固有論，技術論，実践論についての理論と考え方 ･社会福祉における相談援助
8	社会福祉の 制度と仕組み	･措置制度，利用契約制度，行政組織の制度の仕組みを学び，現状や課題について考える
9	社会福祉の 財政問題	･社会福祉財政について歴史的経緯を踏まえた，現状の問題と今後の課題について
10	社会福祉の実際１	･福祉事務所や児童相談所，その他の公的機関の施設においての現状や課題
11	社会福祉の実際２	･保育所，児童厚生施設，助産施設，乳児院，児童養護施設，障害児施設，母子生活支援施設，児童自立支援施設，…等の子ども･母子の施設においての現状や課題について
12	社会福祉の実際３	･特養老人ホーム，養護老人ホーム，デイサービス等の高齢者の施設においての現状と，今後の課題
13	社会福祉の実際４	･身体障害者福祉施設，知的障害者福祉施設，精神障害者福祉施設等の障害者の施設においての現状と婚儀の課題。共生社会の実現。
14	社会福祉の実際５	･社会福祉協議会，地域包括支援センターなどの地域にある施設においての今後の現状や今後の課題
15	社会福祉の課題	･社会福祉の今後の課題 ･諸外国の動向

定期試験	有（保育士国家試験相当の試験を検討）
テキスト	実践から学ぶ社会福祉
参考図書	一番ケ瀬康子『新社会福祉とは何か』ミネルヴァ書房
教員の 評価方法	受講態度（10%）、定期試験（90%）の総合で評価
準備学習等 履修上の留意点	授業前の準備＝前時に予告したテキストの熟読。授業後の指導＝毎時学習プリントを配布するので復習の励行 各１時間程度

社会福祉Ⅱ	1年　後期 卒選　幼選　保必選	講義2単位	担当教員名	鈴　木　永　二

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：保育者に必要な社会福祉論について理解する。

② 目　標　・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
・社会福祉における相談援助について理解する。
・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
・社会福祉の動向と課題について理解する。。

授業の概要

社会福祉2では社会福祉1で学んだ基本的な理論を基に実践について学びを深めていく。社会に出れば必ず様々な問題が起こる。人々の抱える生活問題や生活課題を個人の責任とするのではなく，社会全体の枠組みからとらえ，それらの問題にどう対処していくか，保育士の立ち位置からの社会福祉に特化し，関係者のニーズに対応した事例を中心に考えていく。

そして，本授業が社会の現実に目を向けて取り組む福祉・保育の実践者への道を歩むためのベースとなるようにする。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	社会福祉・ソーシャルワークの考え方１	・社会福祉の政策論，固有論，技術論，実践論についての理論と考え方
2	社会福祉・ソーシャルワークの考え方２	・社会福祉における相談援助
3	社会福祉の制度と仕組み１	・措置制度，利用契約制度，行政組織の制度の仕組みを学び，現状や課題について考える(1)
4	社会福祉の制度と仕組み２	・措置制度，利用契約制度，行政組織の制度の仕組みを学び，現状や課題について考える(2)
5	社会福祉の財政問題１	・社会福祉財政について歴史的経緯を踏まえた，現状の問題と今後の課題について(1)
6	社会福祉の財政問題２	・社会福祉財政について歴史的経緯を踏まえた，現状の問題と今後の課題について(2)
7	社会福祉の実際１	・福祉事務所や児童相談所，その他の公的機関の施設においての現状や課題
8	社会福祉の実際２	・保育所，児童厚生施設，助産施設，乳児院，児童養護施設，障害児施設，母子生活支援施設，児童自立支援施設，…等の子ども・母子の施設においての現状や課題について(1)
9	社会福祉の実際３	・保育所，児童厚生施設，助産施設，乳児院，児童養護施設，障害児施設，母子生活支援施設，児童自立支援施設，…等の子ども・母子の施設においての現状や課題について(2)
10	社会福祉の実際４	・特養老人ホーム，養護老人ホーム，デイサービス等の高齢者の施設においての現状と，今後の課題
11	社会福祉の実際５	・身体障害者福祉施設，知的障害者福祉施設，精神障害者福祉施設等の障害者の施設においての現状と婚儀の課題。共生社会の実現(1)
12	社会福祉の実際６	・身体障害者福祉施設，知的障害者福祉施設，精神障害者福祉施設等の障害者の施設においての現状と婚儀の課題。共生社会の実現(2)
13	社会福祉の実際７	・社会福祉協議会，地域包括支援センターなどの地域にある施設においての今後の現状や今後の課題(1)
14	社会福祉の実際８	・社会福祉協議会，地域包括支援センターなどの地域にある施設においての今後の現状や今後の課題(2)
15	社会福祉の課題	・社会福祉の今後の課題 ・諸外国の動向
定期試験	有（保育士国家試験相当の試験を検討）	
テキスト	実践から学ぶ社会福祉	
参考図書	学ぶ・わかる・見える　保育と社会福祉　みらい	
教員の評価方法	受講態度（10%）、定期試験（90%）の総合で評価	
準備学習等履修上の留意点	授業前の準備＝前時に予告したテキストの熟読。授業後の指導＝毎時学習プリントを配布するので復習の励行　各１時間程度	

子育て支援	2年　　後期 卒選　幼選　保必	演習1単位	担当教員名	小 玉　幸 助

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育者として専門性とされる相談支援の内容と方法を理解し、保護者に対する相談、助言等の技術を習得

② 目標　・　子育て支援の目的と原則について理解する。

・　保護者、家庭への支援の必要性を理解する。

・　子育て支援の実際を学び、知識と方法を理解し、相談、助言、各支援方法の技術を習得する。

・　関係機関や職員間との連携について理解し、ソーシャルワークの技術を習得する。

授業の概要

保護者への相談支援は、保育者の業務であり、その専門性を生かして子育て支援の役割が、特に重要なものあることを踏まえ、　保育に活用され応用される相談支援の内容と方法、技術の習得を目的に学ばせる。その際、子どもの保健、社会福祉との科目との関連性を考慮する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子育て支援の意義	・オリエンテーション　・子育て支援の意義　・保護者の背景
2	子育て支援①	・保育者が可能な相談支援の内容　・ラポール形成
3	子育て支援②	・保護者に対する支援へのニーズと多面的理解　・インテークとカウンセリング
4	子育て支援とアセスメント①	・支援の実践と課題　・支援計画とアセスメント　・記録について
5	子育て支援とアセスメント②	・ケース会議と職員間連携について　・専門職について
6	子育て支援演習①	・ロールプレイ演習(インテーク、支援計画の作成、アセスメント、記録、ケース会議)
7	子育て支援演習②	・課題解決型演習(インテーク、支援計画の作成　アセスメント、記録、職員間連携)
8	家庭に対する支援①	・家族療法について　・専門職との連携について　・事例演習(家族療法・心理教
9	家庭に対する支援②	・関係機関との連携　・要保護児童対策地域協議会　・事例演習(虐待対応)
10	保育士が実践する子育て支援①	・保育所における支援　・地域の子育て家庭に対する支援　・保育ソーシャルワーク
11	保育士が実践する子育て支援②	・特別な配慮を要する子どもと家庭への支援　・虐待と予防
12	保育士が実践する子育て支援③	・多様なニーズを抱える家庭への支援について　・事例演習(家庭への支援)
13	特別対応を要する支援	・発達障害など障害を有する子ども及び家庭への支援について
14	演習(OSCEモデル)	・インテークからソーシャルワークまでの技術評価(事例:多様なニーズを抱える家庭への支
15	まとめ	・まとめ・課題解決型演習(事例)

定期試験	実施する。（保育士国家試験相当）
テキスト	小林育子『演習　保育相談支援』萌文書林　2013.
参考図書	柏女霊峰・橋本真紀・西村真実他『保護者支援スキルアップ講座 - 保育者の専門性を生かした保護者支援 - 保育相談支援（保育指導）の実際』ひかりのくに　2010.
教員の評価方法	受講態度・演習参加（20%）、定期試験（80%）の総合評価
準備学習等履修上の留意点	相談援助・子どもの保健などを復習すること（各科目2時間程度）

子ども家庭福祉	２年　後期 卒必　幼必　保必	講義２単位	担当教員名	鈴　木　永　二

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　：多様化した社会における子ども家庭福祉論の必要性について理解する。

② 目　標　・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する

・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。

・子どもの人権擁護について理解する。

・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

授業の概要

こどもは、未成熟のまま社会に生まれる。生存し成長するのに保護を必要とする状態で出現する。まず、母親や家族、その 近くにいる人々の世話を必要とし、親族や専門家などの育児におけるサポートを期待する。さらに、その子を育てるために専門家の指導が必要とされるが、子どもが自立するまでには十数年も要するのである。この間に行われる社会の援助が子ども家庭福祉である。その理念と実践は、ひとりの子どもにとってのみならず社会にとって重要な資源でもある。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子ども家庭福祉の理念と概念	・児童福祉法と児童憲章　・子ども家庭福祉の理念
2	子ども家庭福祉の現況	・少子化について　・現代社会と児童福祉
3	子ども家庭福祉の歴史	・エリザベス救貧法と児童家庭福祉　・日本の児童家庭福祉の変遷
4	子ども家庭福祉と保育士	・児童福祉法と保育士　・保育所の役割　・児童の権利に関する条約
5	子ども家庭福祉の制度と法体系	・日本国憲法と保育所　・児童福祉法と制度について
6	子ども家庭福祉行財政と機関	・子ども家庭福祉に関わる諸機関について
7	母子保健と子どもの健全育成	・母子保健の現状とその施策について　・健全育成とは何か
8	保育サービス	・保育サービスの現状と課題について
9	要養護児童へのサービス	・社会的養護サービスの内容と課題について。
10	障害児へのサービス	・障害の定義と障害児福祉サービスの概要と課題について。
11	少年非行への対応	・少年非行の現状とプロセスについて　・不登校支援
12	ひとり親家庭へのサービス	・母子及び寡婦福祉法について　・ひとり親家庭への対応（課題）
13	子ども虐待の防止とその対応	・こども虐待の現状とその予防対策について
14	子ども家庭福祉と福祉援助	・子ども家庭福祉でのソーシャルワークのプロセスについて
15	子ども家庭福祉の担い手	・子ども家庭福祉に関係する職員とその役割について

定期試験	１５コマ終了後実施する。
テキスト	児童家庭福祉　　福田公教/山縣文治編著　　ミネルヴァ書房
参考図書	吉田眞里　児童の福祉を支える児童家庭福祉　萌文書林
教員の評価方法	学習への関心態度(10%)、課題・レポート（20%）試験結果(70%)を総合して評価する
準備学習等履修上の留意点	授業前の準備＝前時に予告したテキストの熟読。　　１時間程度 授業後の指導＝毎時配布している学習プリントを利用した復習の励行　　１時間程度

保育原理	1年　前期 卒必　幼必　保必	講義2単位	担当教員名	鈴　木　永　二

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育とは何か、保育に関わる基本原理について学ぶ。

② 目標　・　保育の意義及び目的について理解する。
・　保育に関する法令及び制度を理解する。
・　保育所保育指針における保育の基本について理解する。
・　保育の思想・歴史的変遷について理解する。
・　保育の現状と課題について理解する。

授業の概要

保育士国家資格・幼稚園教諭二種免許状を取得するためには、保育原理の他、保育内容・保育者論などの科目を履修する必要がある。これらの科目は、別個で考えるのではなく、繋がりがある科目として学ぶ必要がある。保育原理は保育の基本を学ぶ科目である。保育者になるための基本科目であることを念頭に、講義に集中して学ぶ必要がある。また保育者の自覚を促すためグループ討議等も講義中に実施する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	イントロダクション	・オリエンテーション　・保育とは何か　・保育と教育、養護の関係について
2	保育と子ども観	・子ども観とは何か　・保育者の子ども観　・子ども観と保育方法について
3	子どもの理解について	・保育における子どもの理解　・子どもの発達とまなざしについて
4	子どもが育つ環境①	・子どもが育つ環境とは　・物的環境と人的環境の関連（グループ討議）
5	子どもが育つ環境②	・時間について考える　・子どもが育つ環境を振り返る
6	保育内容と方法①	・保育の基本と保育内容について　・保育の基本と保育方法について
7	保育内容と方法②	・子どものための保育内容とは　・子どものための保育方法とは
8	保育計画と実践	・保育における計画　・保育計画の作成（演習：グループワーク・トレーニング）
9	障がい児への対応	・障がい児とは　・障がい児への対応方法　・子どもの安全とは（グループ討議）
10	保育の歴史①	・保育の歴史（ヨーロッパ等諸外国）　・保育の歴史（日本：近代）
11	保育の歴史②	・保育の歴史（日本：現代）　・集団保育施設の誕生と発展について
12	保育者に求められるもの	・保育者の仕事　・子どもとの関わりについて　・保護者の関わりについて
13	家庭援助と子育てについて	・現代の子育てについて　・相談援助の基本原則　・保育所における相談援助
14	保育の苦情処理と研修	・保育の評価について　・苦情対応方法（事例から）　・保育者の研修について
15	保育の現状と課題	・子どもを取り巻く環境の変化と保育料　・保育所の現状

定期試験	１５コマ終了後実施する。
テキスト	森上史郎・小林紀子・若月芳浩『最新保育講座1　保育原理』ミネルヴァ書房
参考図書	関口はつ江『保育の基礎を培う保育原理』萌文書林
教員の評価方法	学習への関心態度（10%）、課題・レポート（20%）、定期試験（70%）の総合で評価する。
準備学習等履修上の留意点	予習＝テキスト，幼稚園教育要領、保育所保育指針を中心に予習を行う 復習＝毎時間配布した学習プリント及びテキストによる復習を行う　（予習復習で1時間）

社会的養護Ⅰ	1年　前期 卒選　幼選　保必	講義2単位	担当教員名	井 坂　亨

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　日本における社会的養護の現状と課題の理解

② 目標　・　子どもの社会的養護の理念や歴史について理解する。

・　子どもの社会的養護の概要及び制度と法体系について理解する。

・　増加し続ける児童虐待問題と社会的養護との関連について理解する。

授業の概要

・ 近年、子どもや家庭・地域社会を取り巻く環境の変化や保護者の就労等の多様化により、保育現場は業務量の拡大業務内容の多様化がもたらされている。虐待に代表されるような児童・家庭問題の多様化、複雑化に対応するため、保育士の専門性、施設の組織的対応、地域機関との連携などが求められる。こうしたことから、この科目では、特に社会的養護の基本的な理論として、社会的養護の意義や歴史、社会的養護と児童福祉の関連および児童の権利擁護、社会的養護の制度や体系、自立支援への取組など保育者として基本的な社会的養護の知識を学ぶ。

授業計画

コマ(回)	項　目	内　容
1	イントロダクション	社会的養護Ⅰの科目で学ぶこと
2	社会的養護の基本的考え方	子どもの社会的養護の理念と概念
3		社会的養護の基本的原則
4	子どもの社会的養護の歴史	欧米にける児童福祉観の変遷と子どもの社会的養護
5		日本にける児童福祉観の変遷と子どもの社会的養護
6	子どもの社会的養護の概要	子どもの社会的養護の体系 施設養護の概要
7		施設養護の概要（心身に障害を抱える子どものための施設） 施設養護の概要（情緒・行動に問題を抱える子どものための施設）
8		施設養護の概要（その他の施設） 家庭養護の概要
9	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の取組　　社会的養護を支える法律
10	施設における子どもの社会的養	施設養護の基本理念
11		施設養護の過程
12	施設養護の職員	職種理解とチームワーク　　児童養護専門職の役割 児童福祉施設援助者としての人間性と専門性　保育士等の倫理と責務
13	虐待問題と子どもの養護	増え続ける児童虐待
14		児童虐待と家庭・施設の実態と支援
15	今後の課題と展望	施設の小規模化と地域とのかかわり　　社会的養護の課題と展望
定期試験	１５コマの講義終了後に筆記試験を実施する。	
テキスト	改訂子どもの養護　－社会的養護の基本と内容－　松本峰雄・和田上貴昭　編著　建帛社	
参考図書	社会的養護 第２版　相澤仁　林浩康　編集　中央法規	
教員の評価方法	授業態度（１５％）　レポート・提出物状況（１５％）　定期試験（７０％）の総合で評価	
準備学習等履修上の留意点	授業前の準備＝前時に予告したテキストの熟読。授業後の指導＝毎時学習プリントを配布するので復習の励行（1時間）	

社会的養護Ⅱ	2年　後期 卒選　幼選　保必	演習1単位	担当教員名	邊　見　俊　三

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ　:子どもの養護の場である児童養護施設等における保育士の役割

② 目標

・ 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解を深める。

・社会的養護に関わる相談援助の方法･技術について理解する。

・社会的養護における子どもの虐待防止及び家庭支援について理解を深める。

授業の概要

近年、家庭の養育保護機能が弱体化し、家庭養育だけでは子どもの養育が困難になってきており、社会的養護のニーズが　求められるようになり、施設で働く保育士には、高い専門性が不可欠である。そこで、子どもの権利や家庭及び社会状況について学習するとともに、いろいろな事例をとおして、児童観や施設養護観について学習を深め、社会的養護にかかわる子どもへの支援のあり方について学ぶ。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	今日の養護問題	･児童養護の定義　･社会的養護の今日的課題
2	社会的養護における子どのも理解	･子どもの権利　･社会的養護と子どもの権利
3	社会的養護の理念と機能	･社会的養護の理念　･社会的養護内容の機能と役割
4	家庭養護の理念と生活特性	･家庭･家族への支援　･家族再統合に向けた支援
5	社会的養護における記録と評価	･記録の意義と目的　･社会的養護における評価
6	社会的養護における支援の計画	･アセスメントと支援計画
7	社会的養護における専門的技術1	･保育士の倫理と責務　･保育士の専門性
8	社会的養護における専門的技術2	･保育士の相談援助
9	社会的養護における自立支援	･自立のとらえ方　･自立に向けた支援･援助
10	児童福祉施設と関係機関1	･乳児院　･児童養護施設　･母子生活支援施設
11	児童福祉施設と関係機関2	･障害児施設　･児童自立支援施設　･障害児通園施設
12	児童福祉施設における取り組み	･日常生活支援　･専門的ケア　･子どもの心の援助
13	児童虐待	･児童虐待の要因　･児童虐待の発見と通告　･相談対応の流れ
14	施設養護における家庭支援	･親子関係の援助　･家族における支援
15	社会的養護の課題と展望	･社会的養護にかかわる専門職　･社会的養護のこれから
定期試験	15コマ終了後、筆記試験を行う。	
テキスト	「社会的養護内容」吉田眞理　編著　高橋一弘　村田紋子	
参考図書	{社会的養護内容総論」畠中義久:同文書院、「演習と保育と社会的養護内容」橋本好市:みらい	
教員の評価方法	授業態度(30%)、レポート(30%)、筆記試験(40%)を総合的に評価する。	
準備学習等履修上の留意点	授業前に授業内容をテキストで確認し、授業後は資料や返却されたレポートを読み返して理解を深める。(1時間) 施設実習終了後は、反省点を確認し課題解決に向けて取り組むようにする。	

子どもの養護	1年　　後期 卒選必　幼選必　保選必	講義2単位	担当教員名	井　坂　　亨

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ ： 人生に関連させて社会的養護を学ぶ

② 目標 ・ 児童養護施設の運営・管理について理解する。
・ 施設養護における基本的な援助技術について理解する。
・ 社会的養護の実際と施設養護の実践紹介。
・ 施設実習に向けて。

授業の概要

子どもの養護では，社会的養護Ⅰで学んだ社会的養護に関する基本的な知識をベースに，施設養護における基本的な援助技術を学び，施設保育士をはじめとする福祉専門職の資質や役割について学習する。また，「田乃山ふみ」という人物を主人公とするライフストーリーをもとに，社会的養護の大切さや役割を具体的に考察する。さらに，それぞれの児童福祉施設の概要や利用者，生活の様子，職員の仕事内容等を調べ，施設養護の実際について理解を深め，2年次の施設実習に役立てる。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	児童福祉施設の運営・管理と援助者	児童福祉施設の運営
2		児童福祉施設の管理
3	施設養護における基本的な援助技術	施設養護における援助技術　　個別援助技術
4		集団援助技術　　カウンセリング　　子どもの心理療法
5	社会的養護の実際	施設養護の生活特性　　家庭養護の生活特性　　衣食住の基礎的ニーズの充足
6		しつけ　　学習指導　　余暇生活 施設と学校・地域社会との連携　　自立支援
7	社会的養護における支援計画と個別支援の実際	個別支援計画の作成　　個別支援計画書
8		日常生活支援の実際（児童養護施設・母子生活支援施設の事例分析）
9		自立支援施設の実際（児童養護施設・母子生活支援施設の事例分析）
10	人の一生で見る社会的養護	田乃山ふみ物語　（乳児期，小学校，中学校時代の生活）
11		田乃山ふみ物語　（高校時代，大学時代，施設保育士で働き始めた頃の生活）
12		田乃山ふみ物語　（中堅施設保育士，家庭支援専門相談員，主任保育士の頃の生活）
13	施設養護の実践紹介	児童養護施設　　障害児を対象とする施設
14	施設養護の実践紹介	障害者支援施設　　障害福祉サービス事業所　　児童自立支援施設
15	福祉施設実習に向けて	福祉施設実習の目的　　記録及び自己評価
定期試験	15コマの講義終了後に筆記試験を実施する。	
テキスト	改訂子どもの養護　－社会的養護の基本と内容－　松本峰雄・和田上貴昭　編著　建帛社	
参考図書	図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ　原田旬哉・杉山宗尚　編著　萌文書林	
教員の評価方法	授業態度（15%）、レポート・提出物状況（15%）定期試験（70%）の総合で評価	
準備学習等履修上の留意点	授業前の準備＝前時に予告したテキストの熟読。授業後の指導＝毎時学習プリントを配布するので復習の励行（1時間）	

保育の心理学	1年　前期 卒選　幼選　保必	講義2単位	担当教員名	中　俣　友　子

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：子どもの現在の発達状態が、今後どのように発達を遂げていくのか道筋を理解する。

② 目標　・保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する

・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本とな子どもへの理解を深める

・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関体験、環境の意義を理解する。

授業の概要

幼児教育および保育の専門家にとって、日々触れあう子ども達が現在どのような発達の状態にあるのか、また、今後どのような発達を遂げていくのか、その大まかな道筋を理解することは、発達を援助する効果的な保育を実践するにあたって必要不可欠な知識となる。保育の心理学はこのような知識を体系化した心理学の１分野であり、人間の一生涯にわたる心と行動を研究対象とするものである。授業では、「乳幼児期」の発達に関する心理学の知見について具体的事例を交えながら解説し、乳幼児の心理と行動の理解を深めるとともに保育との関連を考えることを目的とする。合わせて、保育者としての自己理解を目指して、青年期の発達に関する心理学の知見も紹介する。

授業計画

コマ（回）	項　　目	内　　容
1	乳幼児の発達　―発達とは―	心理学，発達心理学の特徴を学び，発達的な考え方を学ぶ意義を理解する。
2	乳幼児の発達　―心身の発達―	身体の発達，および運動能力(粗大運動・微細運動)の特徴を理解する。
3	乳幼児の発達　―心身の発達―	歩行開始後の発達的変化を中心に，身体の発達，および運動能力の特徴を学ぶ。
4	乳幼児の発達　―人間関係の発達―	対人関係の中から発達する愛着感情を理解する。また，これらの発達を支える大人の役割を学ぶ。
5	乳幼児の発達　―人間関係の発達―	友人関係・道徳性の発達を理解する。また，これらの発達を支える大人の役割を学ぶ。
6	乳幼児の発達　―人間関係の発達―	遊びの発達，および仲間関係の特徴を理解する。また，これらの発達を支える大人の役割を学ぶ。
7	乳幼児の発達　―自己の発達―	乳幼児期の自己や反抗期について理解する。
8	乳幼児の発達　―自己の発達―	自己制御や自己評価の発達について理解する。
9	乳幼児の発達　―情緒の発達―	一次的・二次的感情や、他者の情緒理解、社会的参照について理解する。
10	乳幼児の発達　―認知の発達―	三項関係や心の理論を中心に乳幼児期の認知能力の特徴を理解する。
11	乳幼児の発達　―認知の発達―	自己中心性の発達を中心に乳幼児期の認知能力の特徴を理解する。
12	乳幼児の発達　―認知の発達―	記憶や描画発達を中心に乳幼児期の認知能力の特徴を理解する。
13	乳幼児の発達　―言葉の発達―	叫喚から多語文発話まで，有意味言語を話すまでを中心に乳幼児の言語発達を理解する。
14	乳幼児の発達　―言葉の発達―	話し言葉や読み書き言葉の発達の特徴を理解する。
15	生涯発達のまとめ	児童期以降の各発達段階における発達課題を理解することを通して，生涯発達の視点を学ぶ。

定期試験	15コマ終了後に筆記試験
テキスト	エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学-関係の中で育つ子どもたち　岡本依子･菅野幸恵･塚田-城みちる共著　新曜社
参考図書	保育ライブラリ　子どもを知る　乳幼児心理学　　無藤隆・岩立京子編著　北大路書房　　ほか
教員の評価方法	授業内容の理解や、授業で得た知識をどの程度まで保育に生かすことができるかという観点から、授業態度、学期末試験などをもとに総合的に評価する。（授業態度20%、試験80%）
準備学習等履修上の留意点	毎時間、前回の授業内容の小テストを行なうので、復習してくること（1時間）　なお、中間テストも実施予定

子どもの理解と援助	2年　前期 卒選　幼必　保必	演習1単位	担当教員名	中　俣　友　子

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：子ども理解の意義を学び、保育実践に生かす力を身に付ける

② 目標　・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について

・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する

・子どもを理解するための具体的な方法を理解する

・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する

授業の概要

子ども理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結び付けて考察する力を身に付ける。また、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付ける。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	子ども理解とは	子ども理解と指導案の作成・実施・評価との関係を学ぶ
2	子どもの行動と課題	統計資料や保育実践事例から子どもの気になる行動の課題を捉える
3	子どもとの信頼関係	子どもと保育者の温かい関係・信頼関係の重要性
4	子どもと遊び	遊びの中で子どもが何を学び、身に付けているかを読み取る
5	協同性の育ち	協同性の育ちを捉える視点
6	集団の育ち	けんかやつまずきの場面から個の育ちと集団の育ちを読み解く
7	保育者の対応	保育者の対応から周囲の子どもは何を学んでいるかを考える
8	子どもの発達と学び	子どもの発達や学びを捉える観察及び記録の方法
9	子どもの遊びと記録	子どもの遊びの様子を観察し、記録する
10	保育者間の連携	グループ協議から、多様な見方、考え方に気付く
11	10の姿	学びのつながり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
12	子育て支援	統計資料や事例から子育て支援の課題を捉える
13	カウンセリング	カウンセリングの基礎的な姿勢と技法を学ぶ
14	家庭との連携	保護者の心情の理解と家庭への支援の方法を学ぶ
15	専門機関との連携	園内の協力体制と専門機関等との連携の在り方

定期試験	15コマ終了後に筆記試験
テキスト	なし（随時、資料を配布する）
参考図書	なし
教員の評価方法	授業内容の理解や、授業で得た知識をどの程度まで保育に生かすことができるかという観点から、授業態度、学期末試験などをもとに総合的に評価する。（授業態度20%、試験80%）
準備学習等履修上の留意点	毎時間、前回の授業内容の小テストを行なうので、復習してくること（1時間）　なお、中間テストも実施予定

子ども家庭支援の心理学	２年　　前期 卒選　　幼選　　保必	講義２単位	担当教員名 ７ ７ ７ ７

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：生涯を見通した、子どもの心身の発達、親子関係・家族関係をめぐる現代社会の子育て状況と課題を理解する。

② 目標　・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。

・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、その家庭を包括的に捉える視点を習得する。

・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。

・子どもの精神保健とその課題について理解する。

授業の概要

この世に生を受けた子どもたちは、人間社会の一員として育っていく。子どものへの理解は、生涯を見通したうえでの今でなければならない。子どもをとりまく親子関係、家族関係、社会状況等を踏まえ、子ども支援の課題、視点を習得、理解を深める。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容	担　　当
1	オリエンテーション	オリエンテーション 子ども家庭支援の心理学での学び	
2	生涯発達	乳幼児期の発達	
3		乳幼児期から学童期前期にかけての発達	
4		学童期後期から青年期にかけての発達	
5		成人期・老年期における発達	
6	家族・家庭の理解	家族・家庭の意義と機能	
7		親子関係・家族関係の理解	
8		子育ての経験と親としての育ち	
9	子育て家庭に関する現状と課題	子育てを取り巻く社会的状況	
10		ライフコースと仕事・子育て	
11		多様な家庭とその理解	
12		特別な配慮を要する家庭	
13	子どもの精神保健とその課題	子どもの生活・生育環境とその影響	
14		子どもの心の健康に関する影響	
15	まとめ	学びの振り返り　まとめ	

定期試験	定期試験は実施しない。随時の課題レポーの提出で評価する。
テキスト	「子ども家庭支援の心理学」：中央法規
参考図書	「家庭支援の心理学」：建帛社　メディア教材等も適時活用
教員の評価方法	授業態度（20%）、発表・レポート・提出物状況（80%）の総合で評価する。
準備学習等履修上の留意点	講義後は、まとめ（１時間）のレポートを提出する。

子どもの保健	１年　前期 卒必　幼必　保必	講義２単位	担当教員名	髙　橋　晴　美

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　子どもの心身の健康と発育及び保健の意義を理解する。

② 目標　・　子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。

・　子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。

・　子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。

・　子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

授業の概要

子どもの健全な心身の発達を促し、子どもが本来持っている能力を十分発揮できるよう、教育・支援に携わることの重要性を理解する。また、子どもの成長過程や疾病の予防と適切な保健的対応などに関する基礎的事項を学び、保育者としての役割を自ら考えることができるように進めていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子どもの心身の健康と保健の意義	生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的
2		健康の概念と健康指標
3		現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策
4		地域における保健活動と子どもの虐待防止
5	子どもの身体的発育・発達と保健	身体発育及び運動機能の発達と保健
6		生理機能の発達と保健
7	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察及び心身の不調等の早期発見
8		発育発達の把握と健康診断
9		保護者との情報共有
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応	主な疾病の特徴①　新生児の病気　先天性の病気
11		主な疾患の特徴②　循環器　呼吸器　血液　消化器の病気
12		主な疾患の特徴③　アレルギー　免疫　腎泌尿器　内分泌の病気
13		主な疾患の特徴④　脳の病気　その他の疾患
14		主な疾患の特徴⑤　感染症
15		子どもの疾病の予防と適切な対応

定期試験	①15コマ終了後前期筆記試験
テキスト	「子どもの保健」　松田博雄・金森三枝編集　中央法規
参考図書	「子どもの保健～健康と安全～」　大澤眞木子監修　小國美也子編著　日本小児医事出版社
教員の評価方法	授業態度（10%）、レポート・提出物状況（１0%）定期試験（８0%）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	テキストに目を通し、１時間は予習してくること

子どもの健康と安全	１年　後期 卒必　幼必　保必	演習１単位	担当教員名	髙　橋　晴　美

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　子どもの保育環境を最善な状態に整えておくことの重要性を理解する。

② 目標　・　保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。

・　保育における衛生管理・事故防止・安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。

・　子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。

・　保育における感染症対策について具体的に理解する。

・　保健的対応の基本を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応について具体的に理解する。

・　子どもの健康安全管理に関わる組織的取り組みや、保健活動計画の計画評価について理解する。

授業の概要

子どもたちが長い時間を過ごす施設の環境を整えることは、子どもの成長にとって大切であることを理解し、安全で健やかに楽しく過ごせる保育環境について学ぶ。併せて、関連するガイドラインや近年のデータ等を活用し、より具体的な対処法について学習する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	子どもの健康と保育の環境
2		子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康
3	保育における健康及び安全の管理	衛生管理
4		事故防止及び安全対策
5		災害への備えと危機管理
6	子どもの体調不良等に対する適切な対応	体調不良や傷害が発生した場合の対応
7		救急処置及び救急蘇生法
8	感染症対策	感染症の集団発生と予防・対応
9	保育における保健的対応	保育における保健的対応の基本的考え方
10		３歳児未満児への適切な対応
11		個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
12		障害のある子どもへの適切な対応
13	健康及び安全の管理の実施体制	職員間の連携・協働と組織的取り組み
14		保育における保健計画及び評価
15		子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携
定期試験	15コマ終了後筆記試験	
テキスト	「子どもの健康と安全」　　松田博雄・金森三枝編集　　中央法規	
参考図書	保育所におけるアレルギー対応・保育所における感染症対策・教育保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン　（政府刊行書）	
教員の評価方法	授業態度（10%）、レポート・提出物状況（10%）定期試験（80%）の総合で評価	
準備学習等履修上の留意点	テキストに目を通し、１時間は予習してくること	

子どもの食と栄養 Ⅰ	１年　前期 卒選　　幼選　　保必	演習2単位	担当教員名	千　島　優　子

授業のテーマ及び到達目標

① ﾃｰﾏ ：　小児栄養の基本的理論を理解した上で、実際の保育に役立つような実践力を身につける。

② 目標　1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める
3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する
5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する

※保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（平成23年3月、厚生労働省）
保育所における食事の提供ガイドライン（平成24年3月、厚生労働省）

授業の概要

乳幼児期は、人生の始まりの時期です。心身の発達にとっても最も重要な時期であり、健全な心身の発達に、適切な栄養は必要不可欠です。健康的な生活の基本としての食生活の意義や栄養の基本を学ぶ。また、食育の基本及び地域社会・文化との関わりを学ぶことにより、家庭や児童福祉施設の食生活の現状について学ぶ。生活の多様化による個々人の対応と特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解を深める。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活
2		子どもの食生活と現状と課題（自分の食事と子どもの食事）
3	栄養に関する基礎知識	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4		食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5	子どもの発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
6		幼児期の心身の発達と食生活
7		学童期の心身の発達と食生活
8		生涯の心身の発達と食生活
9	食育の基本と内容	保育における食育の意義・目的と基本的考え方
10		食育のための環境づくりと食育の内容と計画及び評価
11		地域の関係機関や職員間の連携
12		食生活指導及び食を通した保護者への支援：食育発表
13	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭と児童福祉施設における食事と栄養
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの対応
15		食物アレルギーのある子どもへの対応
定期試験	15コマ終了後に定期試験を実施する。	
テキスト	発育期の子どもの食生活と栄養　学建書院	
参考図書	子どもの食生活　（ななみ書房）	
教員の評価方法	レポート・発表（３０％）、期末試験結果（７０％）を総合的に判断する。	
準備学習等履修上の留意点	毎回事前学習として、６０分程度要するレポートを作成する。	

子どもの食と栄養Ⅱ	1年　後期 卒選　幼選　保必	演習2単位	担当教員名	千　島　優　子

授業のテーマ及び到達目標

①ﾃｰﾏ　：　「子どもの食と栄養」を理解した上で、実際の保育に役立つような実践力を身につける

②目標 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する保育士として役立つ実践的な内容を学ぶ
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について実践的な内容とし体験を通し理解を深める
3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解し体験を通して理解する
5. 関連するｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する
6. 学びを実践に移す過程として、発表の場を設定する

※保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（平成23年3月、厚生労働省）
保育所における食事の提供ガイドライン（平成24年3月、厚生労働省）
食育基本法（平成17年6月17日制定法律第63号　最終改正平成27年9月11日法律第66号）

授業の概要

子供の食と栄養を学んだ知識をもとに、実習をとおして実践力や応用力を養う。一歩進んだ実習や食育の体験をから幼児の健康を維持し、食べることを楽しみ、生きる幸せを感じるための「食べる力」を育む支援ができる保育士の養成を目指す。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	食生活や栄養についての実践	子どもの心身の健康と食生活を統計から考える
2		献立作成・調理の基本について実習をする
3		疾病や体調不良対策として口から食べることの実習を行う
4		自分の食事と子どもの食事の違いを献立作成から考える
5	子どもの発育・発達と食生活実践	乳児期の授乳期・離乳期の食生活をふまえた献立作成
6		乳児期の授乳期・離乳期の離乳食を中心とした調理実習
7		幼児期の心身の発達と食生活をふまえた献立作成
8		幼児食を中心とした調理実習
9		子どもの食と健康についてのまとめ：発表会
10	食育の実践的取り組み	保育における食育の意義・目的と実際
11		食育のための媒体づくり①
12		食育のための媒体づくり②
13		食生活指導及び食を通した保護者への支援：発表会
14	緊急時の対応	食物アレルギーのある子どもへの対応
15		緊急時・災害時への対応
定期試験	15コマ終了後に定期試験を実施する。	
テキスト	なし	
参考図書	子どもの食生活と栄養　学建書院	
教員の評価方法	レポート・発表（３０％）、定期試験結果（７０％）を総合的に判断する。	
準備学習等履修上の留意点	毎回事前学習として、自分の身体や食べ方と関連する６０分程度を要するレポートを作成する。	

子ども家庭支援論	２年　　後期 卒選　幼選　保必	講義２単位	担当教員名	齋　藤　亮　一

授業のテーマ及び到達目標

① ﾃｰﾏ　：　家族の子育てに対する社会的支援について学ぶ

② 目標　・ 少子化進行の中で、保育所の努力義務としての地域の子育て支援について理解する。

・ 保育士に求められている保育に伴う子どもの保護者・家庭への様々な支援について学ぶ。

・ 支援に当たっての基本的な理念を理解し、具体例から支援の実際について学ぶ。

授業の概要

今日、児童福祉施設における家庭支援は、必須の機能となっている。保育所をはじめとする児童福祉施設において取り組まれている地域子育て支援機能は、保育士の職務に大きな影響を及ぼしている。このような動向を踏まえて保育士が従事する児童福祉施設における家庭支援のあり方や保育士自らの保護者・家庭支援のあり方について、講義および演習を通して、認識を深める。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	家庭支援とは	①ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ （目的･方法･評価） ②子どもが育つとは
2	子育てと家族・家庭①	①子どもが育つ場としての｢家族｣｢家庭｣ ②家族･家庭の動向と現状
3	子育てと家族・家庭②	①家庭支援の課題
4	子育てをめぐる問題①	①子育て家庭をとりまく社会環境の変化
5	子育てをめぐる問題②	①子育て意識の変化　②子育て「困難」のさまざま
6	子育て家庭支援の政策動向と展望①	①子育て家庭を支援する具体的制度
7	子育て家庭支援の政策動向と展望②	①子育て家庭支援の政策動向
8	子育て家庭支援のあり方①	①子育て家庭支援の目的
9	子育て家庭支援のあり方②	①対象と援助　②相談・援助者の役割と基本的態度
10	子育て家庭支援のあり方③	援助の実際①～③
11	特別なニーズを持つ家族と援助①	特別なニーズへの対応の考え方
12	特別なニーズを持つ家族と援助②	①乳幼児の虐待　②DVについて
13	特別なニーズを持つ家族と援助③	①ひとり親家庭　②ステップファミリー
14	世界の子育て①	①国際比較
15	世界の子育て②	①諸外国の子育て支援の実態

定期試験	１５コマ終了後に筆記試験を実施する.
テキスト	「実践　家庭支援論」　松本園子　永田陽子　福川須美　堀口美智子　著　　ななみ書房
参考図書	「保育所保育指針解説書」厚生労働省編
教員の評価方法	定期試験の結果(60%)　学習への関心・態度(20%)、課題解決への取り組み状況(20%)等により総合的に評価する。
準備学習等履修上の留意点	テキストと講義資料を読んでくること(１時間), レポートや小論文の提出

保育内容総論	１年　　前期 卒選　　幼必　　保必	演習１単位	担当教員名	井　坂　　亨

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：　保育所保育指針・幼稚園教育要領の「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて、保育内容全体について理解する。

② 目標
- 保育内容の歴史概観、保育所・幼稚園の保育内容の構成について理解する。
- 保育所・幼稚園の計画と実践について理解する。
- 養護（生命の保持, 情緒の安定）と教育（五領域）が一体的に展開することを、具体的な保育実践につなげ理解する。
- 子どもの育ちを支える保育者のあり方を考える。

授業の概要

保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育目標, 子どもの発達, 保育内容を関連付けて学習する。保育内容の歴史概観、保育内容、保育所・幼稚園の計画と実践、養護と教育の一体的な展開、保育者のあり方等について学習する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	「保育内容」とは何か	・「保育内容」の歴史概観　・「保育内容」の「基本」
2	保育所の保育内容	・保育所における保育　・保育所保育の原理　・保育の内容構成
3	保育所保育の理念と目標	・保育所の生活のあり方　・社会的視野の拡がりの中で ・保育所保育の内容
4	３歳未満児の保育内容	・３歳未満児の保育内容の構造　・０歳児の保育内容 ・１歳児の保育内容　・２歳児の保育内容
5	３歳以上児の保育内容	・保育所の保育内容の特質　・発達の特徴と保育士のかかわりの視点
6		・３歳以上児の保育内容の構成　・３歳以上児の保育に関わる配慮事項
7	保育所の計画と実践	・保育所の計画　・保育所の特色と計画　・保育の計画と指導計画
8		・保育課程の作成　・指導計画の作成　・家庭との連携
9	幼稚園における教育	・学校教育法と幼稚園　・幼稚園教育の基本　・幼稚園教育の目標
10	幼稚園教育の内容構成	・教育要領の「ねらい」・「内容」（領域）　・幼稚園教育の指導計画
11		・教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 ・情報機器・教材の活用法
12	幼稚園の計画と実践	・教育課程　・指導計画　・計画と実践
13	保育内容の実践的（総合的）把握	・遊び的な活動　・生活の営みにかかわる活動 ・行事題材による活動 ・保育内容の総合性と相互性
14		
15	子どもの育ちを支える保育者のあり方	・子どもにとっての望ましい保育者　・研究する保育者
定期試験	定期試験なし	
テキスト	「保育内容総論」民秋　言・吉村真理子　編著（萌文書林）	
参考図書	「保育所保育指針解説書」　「幼稚園教育要領解説」	
教員の評価方法	授業態度（２０％）、レポート提出・内容等の評価（８０％）による総合評価	
準備学習等履修上の留意点	授業後のレポート、次時の予習（１時間）	

保育内容演習・健康	２年　　前期 卒選　幼必　保必	演習１単位	担当教員名	齋　藤　　寧

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：子どもたちの心と体の健康を培うために必要な知識と実践力を身に付ける。

② 目標　・子どもの健康をとらえる視点や健康課題について考える。

・子どもの生理的発達や心身の発達について理解を深める。

・基本的生活習慣獲得や安全生活、遊びの保障について理解を深める。

・領域「健康」のねらいや内容を理解し、保育者としてしてのその役割を自覚し、保育実践していこうとする。

授業の概要：　社会の変化に伴う近年の子どもたちを取り巻く厳しい状況を踏まえ、保育所や幼稚園において、子どもたちの心と体の健康を培っていくためには、どのような生活を大切にしていけばよいか。保育環境や具体的な援助としては何を大切にしていけばよいのか、保育実践者としての理解を深め、実践できるようにする。

授業計画

コマ(回)	項　　目		内　　容
1	第Ⅰ部 子どもの健康をとらえる視点	子どもの健康な育ちの保障	・育みたい資質や能力
2		健康な子ども、元気な子どもの姿	・領域「健康」のねらいと内容や留意点
3		子どもの全面発達、現代っ子の健康課題	・健康課題と対応策　（グループ討議）
4	第Ⅱ部 大人も子どもも整えたい、生理的発達の保障	生活リズムの獲得、恒温の獲得、五感の獲得	・生活リズム　・恒温　・五感
5	第Ⅲ部 心身の発達の概要	未熟から成熟への発達の概要とその援助	・子どもの発達と援助の視点
6		子どもの運動発達の保障と体力	・運動発達　・運動遊びの指導法
7		脳の発達と概念の獲得	・概念形成　・情報機器、教材の活用
8	第Ⅳ部 子どもの生活と健康	基本的生活習慣獲得の保障	・基本的生活習慣の獲得と課題　（グループ討議）
9		子どもの視点に立った安全生活の保障　①	・安全管理　・安全教育　・安全指導法
10		子どもの視点に立った安全生活の保障　②	・リスクとハザード　・情報機器、教材の活用　（グループ討議）
11		子どもの遊びと生活文化①	・遊びが促す心身の発達と援助　（指導案）
12		子どもの遊びと生活文化②	・遊びのとらえ方　・発達にともなう子どもの遊びの変化と大人の援助 （指導案・模擬保育）
13		子どもの遊びと生活文化③	・遊びが促す心身の発達　・遊びを豊かにしてくれるきっかけ （模擬保育）
14	第Ⅴ部 保育実践への活かし方	子どもの健康を支える協働	・子どもの健康を保障する学びの視点　・幼保小接続
15		未来を紡ぐ子ども達の全面発達の保障	・子どもにかかわる大人の役割、保育者の役割

定期試験	定期試験なし
テキスト	演習　保育内容　健康　　井狩　芳子　著　（萌文書林）
参考図書	幼稚園教育要領解説　　保育所保育指針解説書
教員の評価方法	学習に対する関心・態度（２０％）、課題・レポート等（８０％）による総合評価
準備学習等履修上の留意点	テキストを中心に、次回講義のテーマや内容について予習する。また講義後は、テキストや補助資料・グループ討議等をもとに振り返る。（１時間）

保育内容演習・人間関係	２年　　前期 卒選　　幼必　　保必	演習１単位	担当教員名	齋 藤　亮 一

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ　：　子どもたちを人とのかかわりという側面で、どのように育てていくのかについて学ぶ。

② 目標 ・ 保育者をめざす者自身の人間関係について考える。

・ 園生活の中で子どもたちの人とのかかわり方がどのように変化し、そのかかわりを通して、子どもたちの中に何が育つのか。それぞれの発達過程にある子どもたちに保育者としてどのように援助するかを学ぶ。

・ 子どもたちの人間関係の育ちを取り囲む大人同士の人間関係のあり方を考える。

授業の概要

人間関係が希薄になりがちな現代社会の中で育つ子どもたちにとって、自分の存在も周りの人の存在も大切に思える経験を重ねる場として、幼稚園や保育所はますます重要な場になっている。そして、その場で子どもたちに直接かかわる人として、保育者の存在の重要性もますます増している。そのために、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」についての理解を中心に置きつつ、保育者をめざす者自身の存在にも意識を向けることができるようにする。

授業計画

コマ（回）	項　　目	内　　容
1	学習の前に	イントロダクション　（目的・方法・評価）
2	人間関係とは	①自分もほかの人も大切にすること　②私たちにとっての人間関係
3	領域「人間関係」と保育	①「領域」の基本的な考え方　②領域「人間関係」の目指すもの
4	０歳児の人とのかかわりと保育	①胎内～出生　②出生～３か月未満 ③３か月～おおむね６か月未満　④おおむね６か月～
5	１歳児の人とのかかわりと保育	①広がっていく世界　②自己主張　③自分のモノ・友達のモノ
6	２歳児の人とのかかわりと保育	①２歳児とは　②人とかかわる力の育ちと保育
7	３歳児の人とのかかわりと保育	①３歳児の遊び　②子どもの考えの広がり　③３歳児の人間関係
8	４歳児の人とのかかわりと保育	①遊びを通して育つ　②生活を通して育つ
9	５歳児の人とのかかわりと保育	①5歳児という立場とその発達　②コミュニケーションと試行錯誤
10	気にかかる子どもへの援助	①ある子どもが「気にかかる」場合の二つの留意点 ②子どもが求めていることをどう見るか
11	特別な支援を必要とする子どもへの援助	①この演習の目的　②レイ君の事例を通して考える
12	育ちを支える保育者同士の人間関係	①子どもの育ちを支える保育者同士の関係とは　②複数担任の一人として ③園内の保育者の一人として　④情報機器・教材の活用法
13	育ちを支える保護者と保育者の人間関係	①大切な信頼関係　②保護者との対応
14	育ちにかかわる「私たち」の人間関係	①子どもの人間関係の育ちにかかわる「私たち」とは
15	さらなる学びへ向けて：まとめ	①演習の振り返りとその先の課題

定期試験	な　し
テキスト	「演習　保育内容　人間関係」　田代和美　松村正幸　編著　　建帛社
参考図書	「幼稚園教育要領解説」文部科学省刊　「保育所保育指針解説書」厚生労働省編
教員の評価方法	学習への関心・態度(20%)、課題解決への取り組み状況（討議・レポートの内容等）(80%)により総合的に評価する。
準備学習等履修上の留意点	テキストと講義資料を読んでくること（１時間），レポートや小論文の提出

保育内容演習・環境	2年　前期 卒選　幼必　保必	形態 単位数	演習　１単位	担当教員名	尾　崎　律　子

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：望ましい保育環境のあり方を理解することにより、保育者としての実践的な指導力を身につける。

② 目標　・乳幼児期における身近な環境とのふれあいについて、具体的な事例等から理解する。

・乳幼児の発達における様々な環境の意義や役割について、理解を深める。

・子どもの実態に即した環境構成と活用の仕方について、具体的な事例を取り上げながら模擬保育を行うことにより、実践的に学習する。

授業の概要：幼稚園教育や保育所の保育は、子どもを健やかに育てる営みに深くかかわる人的・物的環境のありようを、総合的かつ科学的に考えさせていこうとするものである。子どもの発達特性や生活実態に即した望ましい保育環境をどう構成するかについて考察させ、その環境を保育者が協力して、有効活用していくことの重要性についても理解させる。指導にあたっては、実際の保育場面をイメージさせながら課題を設定させ模擬保育を行わせることにより、実践力を養う。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容	模擬保育
1	保育の基本と保育内容	○保育の基本　○保育内容　○保育の計画 ○領域　○領域「環境」	○オリエンテーション①
2	子どもの「環境とかかわる力」の発達を支えているもの①	○子どもの発達の見方・捉え方 ○生活の中での「環境とかかわる力」の発達	○オリエンテーション②
3	子どもの「環境とかかわる力」の発達を支えているもの②	○遊びの中での「環境とかかわる力」の発達 ○環境の中での「環境とかかわる力」の発達	○模擬保育①
4	子どもの「環境とかかわる力」をどう理解するか①	○身近な自然とどうかかわっているか ○生き物とどうかかわっているか他	○模擬保育①の反省評価 ○ミニ講義
5	子どもの「環境とかかわる力」をどう理解するか②	○文字や記号とどうかかわっているか ○数量や形とどうかかわっているか他	○模擬保育②
6	領域「環境」と保育方法①	○教育課程・保育課程と領域「環境」　○指導計画と領域「環境」○環境構成と領域「環境」	○模擬保育②の反省評価 ○ミニ講義
7	領域「環境」と保育方法②	○保育者の役割と領域「環境」 ○保育者の評価と領域「環境」	○模擬保育③
8	領域「環境」と保育の実際①	○好奇心を抱くには　○情報機器・教材の活用法 ○探究心をもつには ○思考力の芽生えを培うには	○模擬保育③の反省評価 ○ミニ講義
9	領域「環境」と保育の実際②	○物や生命を大切にするには　○文字や数量に関心をもつには他　　○情報機器・教材の活用	○模擬保育④
10	領域「環境」と 実践上の留意点①	○身近な環境を生活に取り入れる ○自然に自分から触れるようになるには他	○模擬保育④の反省評価 ○ミニ講義
11	領域「環境」と 実践上の留意点②	○遊びのなかで物事の法則性に気づく ○繰り返し試したり工夫することの大切さ他	○模擬保育⑤
12	領域「環境」の変遷①	○明治期の保育とその内容 ○大正期から昭和初期の保育とその内容	○模擬保育⑤の反省評価 ○ミニ講義
13	領域「環境」の変遷②	○戦後の新しい教育制度と保育要領 ○高度経済成長期の保育内容～領域の誕生～	○模擬保育⑥
14	領域「環境」の変遷③	○平成の改訂～保育内容・領域「環境」～	○模擬保育⑥の反省評価 ○ミニ講義
15	学習のまとめ	○保育内容「環境」を通して学んだことについてまとめる	◎学習のまとめ

定期試験	実施しない
テキスト	最新保育講座９　保育内容「環境」　柴崎正行・若月芳浩編　ミネルヴァ書房
参考図書	「幼稚園教育要領解説」文部科学省刊、　　「保育所保育指針解説書」厚生労働省編
教員の評価方法	学習への関心・意欲・態度（３０％）、指導案・模擬保育・提出物（７０％）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	テキストと演習資料に目を通してくること（1時間）　　模擬保育の準備を念入りに行うこと（1時間）

保育内容演習・言葉	2年　後期 卒選　幼必　保必	演習1単位	担当教員名	大 平　雅 弘

授業のテーマ及び到達目標

① ﾃｰﾏ　：子どもの思いに寄り添って「言葉」の世界を広げる保育者に求められる知識と実践力を身につける。

② 目標　・子どもの言語発達過程を概観し，ことばを身につけるということの意味を理解する。

・子どもの発達（身体・人間関係・環境とのかかわり）とことばとの関連を理解する。

・ことばの発達をうながす援助について（保育の計画・保育者の役割・小学校との連携等）理解する。

・読み聞かせや紙芝居，ことば遊び等の演習を通して子どもの言葉の世界を広げる技能を身につける。

授業の概要

現今の社会状況の中で「言葉の少ない子ども」が増えている。子どもは育ててくれる周囲の大人が語りかける言葉と，その子どもの生きる世界を少しずつ結びつけて，言葉の世界を作り上げていく。言葉という人間のもつ文化の豊かさを，保育者はどのように育んでいくことができるのか、ということを念頭において学習を進めていく。

単に，言葉を教えるとか，正しい言い方を教えるということではなく，子どもに寄り添って「言葉」の世界を広げたり，お話の中の「言葉」に子どもと一緒にひたったり，子どもの考えのプロセスを「言葉」に置きかえて関わったりすることのできる「センスと技能」をもった保育者を育てていく授業にしたい。

授業計画

コ　マ(回)	項　　目	内　　容
1	幼児教育と言葉	・言葉の機能　・言葉の８つの分野
2	言葉の発達	・乳児　・幼児前期　・幼児後期　・言葉の発達と母親の言葉
3	脳と言葉の発達	・運動機能と言葉の発達　・視覚（触覚　聴覚）と言葉の発達
4	聞くこと・話すこと	・乳児の言葉指導　・幼児前期の言葉指導　・幼児後期の言葉指導
5	読むこと・書くこと	・発達に即した環境と対応　・文字の力を育てるためには
6	言葉あそび	・言葉の少ない子ども達　・乳児（幼児）の言葉遊び　・保育者の勉強
7	劇あそび	・劇あそびの教育的意義　・年齢別役割あそびと劇ごっこ
8	絵本（童話）の読み聞かせ	・どのように読み聞かせるか　・読み聞かせの留意点
9	人形劇・紙芝居	・保育の中の人形劇　・紙芝居の演じ方
10	お話（素話）	・お話（素話）の仕方
11	わらべうた・テレビと視聴覚	・わらべうたと言葉　・テレビの特性　・幼児のテレビ視聴
12	言葉の障害　①	・言葉の障害の種類　・障害をもつ子どもに対しての保育者の心がまえ
13	言葉の障害　②	・さまざまな障害の種類に応じた言葉指導のポイント
14	保育者の言葉　①	・保育者の「言葉」への関わりや対応の重要性
15	保育者の言葉　②	・保育者の対応の留意点（子どもへの対応　保護者への対応）
定期試験	実施しない	
テキスト	「保育 言葉の実際〔第２版〕」　大久保　愛・長沢　邦子 編著　建帛社	
参考図書	「保育内容「言葉」」　柴崎正行　戸田雅美 他編　ミネルヴァ書房	
教員の評価方法	学習への意欲・関心・態度（30%）、演習（読み聞かせ　おはなし　紙しばい等）での発表（40%）、課題の提出状況と内容（30%）等を総合的に評価する。	
準備学習等履修上の留意点	読み聞かせ　紙芝居、おはなし等、発表のために各自練習を重ねる。（１時間）	

保育内容演習・表現	1年　前期 卒選　幼必　保必	演習1単位	担当教員名	石　森　小　緒　里

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ:　幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示される領域「表現」について理解する。

② 目　標　・領域「表現」が意味するねらいと内容について理解する。

・乳幼児の生活の中で育まれる「表現」について理解する。

授業の概要

保育者を志す学生にとって、表現の学びは、自身が「表現者として成長するための学び」と「幼児の表現を育むための学び」に繋がるものでなければならない。人は、表現しながら生き、人が生きていることが表現そのものである。子どもも大人も常にモノや誰か（人）との関係の中に生きながら、その関係が表現の形をつくっていく。表現を育てることはその関係を育てることでもある。授業の中では、保育現場における「ごっこ遊び」や「劇あそび」等の演習を通して、表現の可能性と課題について学習する。

コマ(回)	項　目	内　容
1	表現とは	・子どもの育ちと表現　・幼少期の思い出
2	幼稚園・保育所における表現	・幼児教育の歴史　・表現の種類
3	表現遊び	・「ごっこ遊び」や「なりきり遊び」の大切さ
4		・絵本から広がる表現の可能性(情報機器・教材の活用法)
5		・グループ演習（絵本の世界を体感するしかけ作り）
6		
7		・グループ発表
8	課題（物語、音楽等）からの表現	・テーマと表現方法についての考察（情報機器・教材の活用法）
9		・グループ編成→創作活動 ※各グループごとに分担し、最終目標としてはクラス全体で子どもと一緒に取り組める活動（プログラム）に仕上げる。
10		
11		
12		
13		
14		・幼児（まこと幼稚園）と交流活動
15	表現を育む保育者の姿勢	・子どもの発達と援助の仕方　・これまでの活動を振り返って
定期試験	実施しない	
テキスト	保育内容　領域　表現　日々わくわくを生きる子どもの表現/堂本真実子　編/わかば社	
参考図書	ナツメ社　絵本から広がるあそび大集合　／石井光恵・甲斐聖子　著	
教員の評価方法	授業態度(20%)、レポート（30%）、制作した作品実技発表（50%）を総合的に評価する。	
準備学習等履修上の留意点	・課題発表、レポート提出に向けて事前準備や反省をしっかり行うこと。（時間外活動として各1時間程度）	

乳児保育Ⅰ	１年　　前期 卒選　　幼選　　保必	講義２単位	担当教員名	北　澤　和　美

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：乳児保育の基本、乳児保育の保育内容、乳児保育の現状や課題を理解する。

② 目標　・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。

・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。

・３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。

・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

授業の概要

乳児保育の意義や歴史、そして乳児保育の現状や課題を理解させるとともに保育内容、運営体制、加えて職員間の連携、地域の関係、機関との連携等を踏まえ、乳児期の保育の重要性を理解する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	乳児保育の意義・目的と役割	オリエンテーション　　乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
2		乳児保育の役割と機能　乳児保育における養護及び教育
3	乳児保育の現状と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
4		保育所における乳児保育
5		保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
6		家庭的保育等における乳児保育
7		３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
8	３歳未満児の 発育・発達を踏まえた保育	３歳未満児の生活と環境
9		３歳未満児の遊びと環境
10		３歳以上児の保育に移行する時期の保育
11		３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
12		３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
13		乳児保育における計画・記録・評価とその意義
14	乳児保育における連携・協働	職員間の連携・協働　保護者との連携協働
15		自治体や地域の関係機関等との連携・協働　前期学習のまとめ

定期試験	１５コマ終了後、定期試験を実施する。
テキスト	「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規
参考図書	「乳児の生活と保育」ななみ書房　「はじめて学ぶ乳児保育」同文書院　ﾒﾃﾞｨｱ教材等も適時活用
教員の評価方法	定期試験（70%）、授業態度（10%）、発表・レポート・提出物状況（20%）の総合で評価する。
準備学習等履修上の留意点	演習の準備を整え授業に出席し、演習後は、まとめ（１時間）のレポートを提出する。

乳児保育Ⅱ	１年　　後期 卒選　　幼選　　保必	演習１単位	担当教員名	北　澤　和　美

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：乳児期の心身の発達を促すために必要とされる知識や援助法を理解する。

② 目標　・３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。

・養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。

・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。

・上記を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

授業の概要

新生児として、この世に誕生した「赤ちゃん」を人間社会で育てるには、乳児期のしっかりとした発育発達を理解し、保育することが大切である。この内容として、乳児の発達過程や身体機能の発達、さらに基本的生活習慣の獲得のための保育士の配慮と援助について、具体的に理解を深めていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	乳児保育の基本	オリエンテーション　　子どもと保育士等との関係の重要性
2		個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
3		子どもの主体性の尊重と自己の育ち
4		子どもの体験と学びの芽生え
5	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際	子どもの１日の生活の流れと保育の環境
6		子どもの生活や遊びを支える環境の構成
7		３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際
8		３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
9		子ども同士の関わりとその援助の実際
10	乳児保育における配慮の実際	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
11		集団での生活における配慮
12		環境の変化や移行に対する配慮
13	乳児保育における計画の実際	長期的な指導計画と短期的な指導計画
14		個別的な指導計画と集団の指導計画
15	まとめ	学びの振り返り　まとめ
定期試験	定期試験は実施しない。	
テキスト	「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規	
参考図書	「はじめて学ぶ乳児保育」同文書院　「乳児保育演習ガイド」建帛社　ﾒﾃﾞｨｱ教材等も適時活用	
教員の評価方法	授業態度（20%）、発表・レポート・提出物状況（80%）の総合で評価する。	
準備学習等履修上の留意点	演習のための発表等事前準備を1時間は行い、授業に出席する。	

特別支援保育	1年　後期 卒選　幼選　保必	講義２単位	担当教員名	小 玉　幸 助

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　障害に関する知識や教育指導、支援方法を修得する。特別支援教育をテーマとする。

② 目標　・　障害に関する知識を習得する。

・　教育指導方法を習得する。

・　支援方法を習得する。

・　地域連携や特別支援教育の計画ができるようにする。

授業の概要

特別支援教育及び障害児保育領野に関する知識・支援方法について学び、教育方法のアプローチやチーム学校の形成の方法、保護者への支援、関係機関との地域連携等について学ぶ。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	特別支援教育と幼児教育について	・オリエンテーション　・特別支援保育の意義　・特別支援教育の歴史
2	特別支援教育の役割について	・特別支援教育の役割について　・特別支援教育コーディネーターの役割
3	発達障害について(1)	・発達障害者支援法　・DSMとICD　・自閉症、アスペルガー障害
4	発達障害について(2)	・ADHD(注意欠如・多動性障害)、学習障害、広汎性発達障害について
5	知的障害について(軽度知的障害を中心に)	・知的障害について　・軽度知的障害について　・療育手帳等　・事例演習(課題
6	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害について　・聴覚障害について　・各検査、人工内耳、ビジョン・トレーニングに
7	肢体不自由・病弱について	・肢体不自由・病弱について　・医療的ケア児について
8	その他の障害について	・小児期崩壊性障害、言語障害、重症心身障害等について　・医療的ケアと療育
9	障害児への教育と指導	・教育指導方法　・統合保育　・特別支援教育コーディネーター(ケース会議・計画・アセス
10	障害児への自立活動と近年の生物心理社会的療法	・障害者総合支援法等の法律について　・自立活動　・生物心理社会的療法について
11	障害はないが「気になる子ども」とその対応について	・「気になる子ども」について　・事例演習(アセスメントとケースフォーミレーション)
12	貧困問題などの社会問題と保護者への支援について	・貧困などの社会問題について　・保護者への支援方法について　・教育支援計
13	教職員との連携及び地域連携(1)	・特別支援連携協議会について　・教育支援計画と指導計画について　・保護者
14	教職員との連携及び地域連携(2)	・教育支援計画と指導計画の作成(ケース事例演習)　・関係機関との連携及び職員間連
15	まとめ	・まとめ　・事例演習(教育支援計画、個別の指導計画から支援方法、関係機関

定期試験	実施する。（保育士国家試験相当）
テキスト	プリント資料を配布する。文献については随時、情報提供をする。
参考図書	上中修編著『Professionalを目指す保育者論』教育情報出版.2019.
教員の評価方法	受講態度・意欲・演習参加（20%）、定期試験（80%）の総合評価
準備学習等履修上の留意点	社会福祉・子どもの保健を復習すること（各科目1時間程度）

保育指導法の研究	１年　　後期 卒選　　幼必　　保必	講義２単位	担当教員名	齋 藤　寧

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　子どもの豊な活動・経験を援助するための保育の方法について学ぶ。

② 目標　・　子どもの豊な活動・経験を援助するために保育者は子どもにどうかかわっていくかを理解する。

・　保育の多様性をとおして、保育の工夫についての理解を深める。

・　乳幼児期の子どもにとって大事な遊びや生活についてみる目を養う。

授業の概要

活動的、行動的存在である子どもが、自由に活動できる保育所（園）や幼稚園において、保育者の役割は、子どもの興味・関心を誘発する環境を構成し、様々な刺激を与えながら、自己活動を引き出すことである。そのことにより、子どもが生み出した自己活動をねらい（保育内容）の方向に向けて、発展させる方向について検討していく必要がある。そのことを踏まえ、豊かな保育実践を展開するための保育の方法・指導法について学習する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	講義内容について	・講義内容の概要についての説明
2	保育方法の基本について	・保育方法の原理
3	乳幼児の理解と保育方法	・子どもの内面的な理解と方法、子どもの発展的な理解と保育
4	環境による保育	・子どもにとって環境のもつ意味と環境構成について
5	遊びによる総合的指導	・遊びとは何か　・遊びを通しての総合的指導　・遊びの生成と展開
6		
7	遊びで得るもの・学び	・遊びで得たことや学んだこと（課題）
		・園庭や遊具の設置等の工夫（グループ討議）
8	子どもにふさわしい園生活の展開	・幼児にふさわしい生活の展開　・柔軟で多様な保育形態
9		・一日の生活の展開
10	保育における個と集団	・集団の育ちと個の育ち・一人ひとりの良さが響きあう保育
11	発達の時期に応じた保育のあり方	・入園当初、園生活に慣れてきた時期の保育
		・仲間と協力して生活する時期、卒園前の時期の保育
12	行事を生かした保育の展開	・園生活の中の行事と行事の計画について
13	家庭・地域・小学校との連携を生かした保育	・家庭・地域に開かれた地域との連携が生かされた保育
		・小学校との連携が生かされた保育
14	様々な工夫が求められる保育	・障害のある子ども、外国人の子どもの受入れと保育（事例検討）
15	保育者の成長と保育実践の深まり	・保育者の成長と省察、研修について
定期試験	１５コマ終了後実施する。	
テキスト	「保育の方法・指導法の研究」ミネルブヴァ書房	
参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針	
教員の評価方法	学習への関心態度（10%）、課題・レポート・提出物状況（20%）定期試験（７0%）の総合で評価	
準備学習等履修上の留意点	テキストを中心に次回講義テーマや内容について予習する。また講義後は、テキストや補助資料等をもとに振り返る。（１時間）	

児童文化	１年　　前期 卒選　　幼選　　保必	演習２単位	担当教員名	尾　崎　律　子

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　保育実践を意識した講義・発表体験を通して児童文化を理解する。

② 目標　・　児童文化に関する基礎知識を理解する。

・　児童文化が子どもの発達にかかわることを理解する。

・　制作・発表等を主とする演習を通して基礎的な技術を習得する。

授業の概要

児童文化の歴史的背景などの基礎的知識を理解し、児童文化は保育の現場で子どもの成長や発達に、重要な影響を与えていることを学習する。玩具の制作、絵本の読み聞かせや紙芝居の実演などを取り入れることにより児童文化財を身近に感じ、豊かな保育が展開できるように学んでいく。

授業計画

コマ(回)	項　　目		内　　容
1	児童文化とは		・オリエンテーション　・児童文化の歴史
2			・児童文化の現状と課題　・児童文化が保育実践に与える効果
3	児童文化財を保育にいかそう	絵本と手遊び	・手遊びの魅力　・絵本の特色 ・絵本によって子どもはどう成長するのか ・絵本の読み聞かせの方法と発表
4			
5			
6		伝承遊び	・伝承遊びとは ・伝承遊びの魅力（折り紙、こま、お手玉、あやとり、わらべうたなど） ・伝承文化，年中行事について
7			
8		玩　具	・玩具とは　・玩具と遊具　・玩具と子どもの育ち ・玩具の制作
9			
10		シアタースタイル	・さまざまなパペット人形、ペープサートの制作と演じ方 （カラー軍手のパクパク人形・靴下のヘビ人形など）
11			
12		紙芝居	・紙芝居の歴史　・紙芝居の種類　・紙芝居の特性 ・紙芝居の演じ方
13			
14	保育の実際を考える		・児童文化財を生かした保育実践（園児と交流）
15			・保育実践の反省と今後の課題　・講義のまとめ

定期試験	なし
テキスト	児童文化がひらく豊かな保育実践（保育出版社）
参考図書	必要に応じて適宜資料を配布
教員の評価方法	授業態度（10%）、発表（40%）、制作（30%）、レポート（20%）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	絵本・紙芝居など，発表のための事前準備を行う(各々1時間）、テキストの次回講義内容を通読（1時間）

カリキュラム論	1年　後期 卒選　幼必　保必	講義２単位	担当教員名	小 松　督 記

授業のテーマ及び到達目標

①テーマ　教育課程・全体的な計画・指導計画の意義、編成・作成の方法、カリキュラムマネジメントの意義の理解

②目標：

１．幼稚園・保育所において教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解する。

２．教育課程・全体的な計画編成の基本原理及び保育実践に即した教育課程・全体的な計画編成の方法を理解する。

３．各領域・年齢をまたいでカリキュラムを把握し、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

授業の概要：

幼稚園教育要領・保育所保育指針を基準として各幼稚園・保育所において編成される教育課程・全体的な計画・指導計画について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園・保育所の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について理解を深める。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	Ⅰ　教育課程・全体的な計画(保育課程)とは	1　教育課程・全体的な計画(保育課程)はなぜ必要か。 ・役割・機能・意義 2　乳幼児期における教育課程・全体的な計画(保育課程)とはどのようなものか。 3　教育課程の歴史的な変化　4　乳幼児期の教育・保育では
2	Ⅱ　さまざまな教育課程・全体的な計画(保育課程)	1　幼稚園教育課程・保育所全体的な計画(保育課程)の変遷 2　さまざまな教育課程・全体的な計画(保育課程)
3	Ⅲ　幼稚園の教育課程とは	1　法律に示されている幼稚園教育の目的 2　法律に示されている幼稚園教育の目標 3　新幼稚園教育要領にみる新たな幼稚園教育の考え方 4　教育課程の編成の例 5　教育・保育実践の振り返りと教育課程の見直し ～カリキュラムマネジメント～ 6　全教職員の共通理解及び保護者への公約
4	Ⅳ　保育所の全体的な計画(保育課程)とは	1　全体的な計画(保育課程)の作成 2　全体的な計画(保育課程)の法律的要件 3　全体的な計画(保育課程)と指導計画 4　全体的な計画(保育課程)の実例　5　保育実践の評価と記録 6　保育所としての自己評価と地域・保護者への情報開示
5	Ⅴ　幼稚園・保育所の生活と乳幼児理解	1　乳幼児期の生活 2　保育の場での発達と一人一人の乳幼児の理解 3　環境を通しての教育　4　遊びを通しての教育 5　主体的・対話的で深い学びのために 6　幼児期の学びと小学校の学び
6	Ⅵ　教育課程・全体的な計画(保育課程)、指導計画を考える上で共通に必要なこと	1　幼稚園教育要領における５つの領域 2　小学校との連携　～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿～ 3　延長保育・預かり保育 4　保護者・地域との連携、子育て支援
7	Ⅶ　全体的な計画(保育課程)、指導計画を考える上で、必要なこと	1　乳児保育に関わるねらい及び内容 2　１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 3　全体的な計画(保育課程)と指導計画の具体化をめざすために
8	Ⅷ　教育課程の編成から長期の指導計画へ	1　教育目標を設定する　2　教育課程を編成する 3　教育課程・全体的な計画(保育課程)と指導計画の関係 4　指導計画の指導とは　5　長期の指導計画
9	Ⅸ　短期の指導計画の作成	1　短期の指導計画 2　指導計画の作成の手順と実践・評価
10		3　振り返り　4　記録のとり方と評価についての新しい動向
11	Ⅹ　全体的な計画(保育課程)を編成し、指導計画を作成する	1　全体的な計画(保育課程)を作成する
12		2　全体的な計画(保育課程)の具体化＝指導計画の作成
13	XI　指導計画の実践	1　指導計画を実践する　・模擬保育
14		2　保育を振り返る　・模擬保育
15	XII 教育課程・指導計画のＰＤＣＡサイクル	1　教育課程・全体的な計画(保育課程)の見直し 2　指導計画のＰＤＣＡサイクル

定期試験	後期試験で実施する。
テキスト	「就学前教育の計画を学ぶ」　松村和子・近藤幹生・桃島香代　著（ななみ書房）
参考図書	保育所保育指針解説（厚生労働省）　幼稚園教育要領解説（文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
教員の評価方法	定期試験(60%）、授業への取り組み状況（20%）、課題の提出状況（20%）を総合的に評価する。
準備学習等履修上の留意点	毎受講後、授業内容を振り返り、与えられた課題や自己課題についての学習を深める。（週１時間程度） 次回の授業内容について、テキスト・参考図書を中心に予習をし、授業の準備をする。（週１時間程度）

情報処理	１年　前期　後期 卒選　幼選　保必	演習２単位	担当教員名	相　澤　裕　子

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ： 情報機器やネットワークを活用して実践で活用できる情報の収集・整理・表現する能力を習得する。

② 目　標： ・情報リテラシー、メディアリテラシーなどの知識と技能の習得
・情報活用の実践力を習熟させ、職業を持つ社会人として情報社会に参画する態度を身につける。
・アクティブラーニング

授業の概要

幼稚園・保育園での利用を中心に、さまざまな職場で活用できるコンピュータの活用について学ぶ。
指定された様式の帳票を作成するだけではなく、自らの発想で作成すること、それに必要なソフトを
適確に選択して利用できる力を養う。
また、インターネット利用して情報を収集・選別・活用する技術を習得するとともに、
パソコン利用上の簡単なトラブルに対しての対処法も系統的に学習する。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション・パソコン習熟度確認・Windowsの基礎知識
2	情報基礎	入力訓練・インターネットの利用・セキュリティなど
3	文書作成	Word（基礎）文章の要素と構成・社外文書と社内文書・基本操作
4	文書作成	Word（表作成基本）
5	文書作成	Word（図関連基本）
6	文書作成	Word（レポートの基本）
7	文書作成	Word（レポートとアウトライン）
8	文書作成演習 ※1	Word（確認問題）
9	文書作成演習 ※2	Word（実践問題）
10	表計算	Excel（表作成基礎・書式）
11	表計算	Excel（表作成基礎・計算式と関数）
12	表計算	Excel（グラフ）
13	表計算	Excel（データベース）
14	表計算	Excel（ピボットテーブル）
15	表計算	Excel（発展的な関数利用）
16	表計算演習　※3	Excel（確認問題）
17	表計算演習　※4	Excel（実践問題）
18	ファイル連携	差し込み印刷・Excel表・グラフの貼り付け
19	ファイル連携　※5	実践問題
20	プレゼンテーション	PowerPoint（プレゼンテーション基礎）
21	プレゼンテーション	PowerPoint（スライド作成とスライドマスター）
22	写真と動画	著作権・SNSと個人情報・ムービーメーカーの利用
23	動画の作成	ムービーメーカー・DVDの作成
24	DVD動画の作成　※6	ムービーメーカー・DVDの作成
25	実践課題　※7	Word利用の文書作成（伝わりやすいチラシ作成）
26	実践課題　※8	Word利用の文書作成（伝わりやすいレポート作成）
27	実践課題　※9	Excel利用の文書作成（データの整理）
28	実践課題　※10	Excel利用の文書作成（データの資料化とファイル連携）
29	総合課題　※11	学級通信の作成
30	総合課題　※12	学級通信をプレゼンテーションにする
定期試験	筆記試験等は行わない。定期試験に代用する課題提出（※マーク）を設定している。	
テキスト	実践ドリルで学ぶ Office活用術　Office2016対応（noa出版）	
参考図書	学生のためのOffice2016＆情報モラル（noa出版）　／　情報活用力（noa出版）	
教員の評価方法	※1～12の実践・総合課題は必須とし、加えて各講義への取組姿勢や課題提出によって判断する。	
	課題の出来栄えと指示に従った作成（氏名記載・操作方法等）であったかによって採点する。	
	採点の基準となるルーブリックはオリエンテーション時に提示する。	
準備学習等履修上の留意点	演習科目のため学生の習得度や利用するOSの状況などの影響により、授業内容を変更したりすること、	
	または順序が前後したりすることがある。	
	テキストの該当箇所は読んで事前に内容の理解に努めること、タイピング練習を行うこと。（１時間）	
	※1～12の課題提出は指定された期限までとし遅延提出は認めない。やむを得ず欠席の際は相談のこと。	

保育の方法及び技術	２年　　後期 卒選　幼必　保選	演習１単位	担当教員名	尾　崎　律　子

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：　教育の方法論を理解し、教育の技術や情報機器及び教材の活用方法を身に付ける。

② 目標　・　これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

・　教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。

・　情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

授業の概要

これからの社会を担う子供たちに求められる資質･能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識･技術を実践事例をあげながら身に付けていく。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	保育の方法・技術とは①	・授業の概要説明　・幼児期の集団生活の意義　・幼児理解から始まる保育
2	保育の方法・技術とは②	・保育の方法とは　・保育活動のしくみの理解～幼児教育のカリキュラム～
3	遊び活動の指導方法と援助	・遊び活動の意義　さまざまな遊び活動の指導・援助の視点とポイント
4	行事活動の指導方法と援助	・さまざまな行事活動について　・行事活動の教育的意義について
5	生活活動の指導方法と援助	・園での生活活動とは　・生活活動の指導・援助の視点とポイント
6	課題活動の指導方法と援助	・課題活動とは　・課題活動の展開 ・課題活動の指導・援助の視点とポイント
7	プロジェクト活動の指導方法と援助	・就学の接続のために育むべき力 ・協同的な学びの指導・援助の視点のポイント
8	保護者支援・地域連携の援助の方法	・保護者支援や地域連携の今日的課題　・家庭との連携・保護者支援の方法
9	保育実践の指導法①	・日案の視点について　・事後記録について　・指導案の作成
10	保育実践の指導法②	・模擬保育
11	評価の方法	・保育計画と評価　・評価の主体・対象　・評価の方法
12		・幼稚園指導要録・保育所児童要録について　・実践事例から学ぶ
13	情報機器の活用方法	・情報機器及び教材の活用について①　・教材の作成方法　・教材の作成
14		・情報機器及び教材の活用について②　・教材の作成　・作品の発表
15	学習のまとめ	・これまでの学習のまとめ
定期試験	なし	
テキスト	「実践を創造する　幼児教育の方法」　みらい	
参考図書	幼稚園教育要領解説・保育所保育所指針解説書 「遊び・生活・学びを培う教育保育の方法と技術　実践力の向上をめざして」　北大路書房	
教員の評価方法	学習への意欲・態度（20%）、発表（30%）、課題レポート・指導案等の提出物（50%）を総合して評価する。	
準備学習等履修上の留意点	授業内容の予習（1時間)、授業後の課題レポート提出(1時間)　模擬保育の準備（1時間）	

教育相談	2年　後期 卒選　幼必　保必	講義2単位	担当教員名	邊　見　俊　三

授業のテーマ及び到達目標

① ﾃｰﾏ　：幼児保育、幼児教育の基礎的なカウンセリング（教育相談）の技法について学ぶ。

② 目標

・保育に活かすカウンセリング（教育相談）の理論や具体的な進め方についての理解を深める。

・演習をとおして他者の気持ちを想像する力を高めるなど保育者としてのカウンセリング技術の向上を図る。

授業の概要

保育を取り巻く社会環境は大きく変わり、子育て支援への関心が高まっている。一人ひとりの子どもが自分の持ち味を生かし、豊かな自己実現を図れるように子育てすることが緊急の課題となっている。そこで、保育所、幼稚園などにおいて幼児保育や幼児教育に必要なカウンセリングの技術について学習するとともに、グループでの演習や事例などを取り入れた相互学習やグループ学習を中心に実践的に学ぶ。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	教育相談・カウンセリングとは何か	・保育活動と教育相談 ・保育園・幼稚園におけるカウンセリング
2	カウンセリングの基本的な考え方	・カウンセリングの原理　　・カウンセリングの基本的な進め方
3	カウンセリングマインド	・カウンセリングマインドとは ・カウンセリングマインドを活かす
4	子どもの発達への援助Ⅰ	・乳幼児の発達と保育者の援助　　・情緒的発達
5	子どもの発達への援助Ⅱ	・幼児期の発達と保育者の援助　　・児童期・青年期の見通し
6	子ども理解の意味と方法	・アセスメントのあり方　　・子ども理解をもとにした指導
7	保育所・幼稚園における 教育相談の意義	・保育園・幼稚園における教育相談とは ・幼児期にふさわしい保育
8	登園拒否の理解と指導	・登園拒否の理解　　・登園拒否の指導 ・保護者への働きかけ
9	社会性の発達とつまずきへの理解	・社会性の発達　　・社会性のつまずき ・社会性を育てるかかわりの工夫
10	遊びの意義と教育相談	・子どもと遊び　　・保育所・幼稚園での遊び ・プレイセラピー
11	子育て支援のあり方	・子育てにおける親支援　　・子育て支援の構築 ・親へのカウンセリング
12	保護者への支援	・保護者との連携　　・保護者との関わり方
13	発達障害の理解	・保育所・幼稚園における特別支援　　・関係機関との連携
14	地域社会・関係機関との連携	・家庭・地域と子育ての共有　　・地域の人的資源の活用
15	保育者のメンタルヘルス	・保育者の心のゆとり　　・保育者としての成長 ・ストレスとリラクゼーション
定期試験	１５コマ終了後、筆記試験を行う。	
テキスト	「子ども理解とカウンセリングマインド」編著　青木久子　萌文書林	
参考図書	「子育て・保育　カウンセリングワークブック清水勇、阿部裕子：学事出版	
教員の 評価方法	授業態度（30%）、レポート（30%）、筆記試験（40%）を総合的に評価する。	
準備学習等 履修上の留意点	・授業前に各コマの授業内容をテキストで確認し、授業後は使用した資料や返却されたレポートを読み返し理解を深める。（１時間） ・グループ演習では、自分の意見や感想などを積極的に述べるよう心掛ける。	

造形表現Ⅰ	1年　後期 卒必　　幼必　　保必	演習2単位	担当教員名	石 森 小 緒 里

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：保育環境で役立つ造形活動

② 目標　・造形的な活動を通して、表現することの楽しさを味わう。

・課題作品の制作は、その際の適切な材料や用具について、自ら工夫し積極的に研究を行う。

・幼児と共に安全で楽しく取り組める造形あそびの研究を行う。

授業の概要

幼児は「遊び」を通して自身を確かめ、想像力を養いながら少しずつ「人」や「物」と触れ合い生きる力を身に着けていく。そうしたことから、保育者が担う環境（遊びの場）作りは大変重要である。授業では、できるだけ多くの材料体験をめざした課題制作に取り組み、実際の保育現場においても、子どもたちと共に安全で楽しく取り組める教材作りに応用させる。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	幼児と造形表現	造形表現の意義
2		領域「表現」の中の造形表現
3	平面造形の技法と応用	様々な表現技法の体験と応用（教材化）
4		（フロッタージュ、スクラッチ、マーブリング、スパッタリング、
5		デカルコマニー, コラージュ等の技法演習と適切な紙素材選び）
6		◆クレヨンの導入とあそび
7		◆色の三原色、色相環ワーク
8		
9		◆共同制作活動
10		
11	手作りおもちゃであそぶ	身近な素材（生活用品等）を活かしておもちゃをつくる
12		◆工作材料や道具について
13		◆切る、貼る、くっつける
14		◆発達と援助
15		
16	造形技法の総合的応用課題	スケッチブックシアター制作
17		◆様々な素材や技法を使って「しかけ」をつくる
18		◆保育実習で活用できる教材作り
19		
20		
21		
22		
23		◆作品発表（模擬保育）
24	装飾的な環境づくり	保育環境に活かせる装飾的な作品と行事への応用
25		◆季節感を楽しむ
26		◆思い出を飾る
27		◆空間を飾る（壁面デザイン）
28		
29		
30		

定期試験	なし
テキスト	「幼児造形の基礎」　樋口一成　編著/萌文書林
参考図書	適宜紹介する。
教員の評価方法	準備忘れ物状況を含めた授業態度（20%）課題に対しての創意工夫（自己評価）を加味した課題作品からの評価（80%）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	保育現場で活用することを意識して課題制作に取り組むこと。使用する材用や用具は大切に扱い、授業で用意されたもの以外にも各自工夫・研究を行う。（各課題の為の事前準備や自主制作の時間外活動として１時間程度）

造形表現Ⅱ	2年　　前期 卒選　　幼選　　保選	演習2単位	担当教員名	石 森 小 緒 里

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：幼稚園・保育所実習で活用できる教材作り

② 目標　・幼児にとってダイナミックで自由な造形活動が展開できる教材作りをイメージし、創意工夫を行う。

・実習で実際に活用できる教材をつくり、より積極的な実習体験ができるよう工夫する。

授業の概要

保育者を志す立場としての明確な視点から「造形表現Ⅰ」で行った内容をさらに深め、幼児とより豊かな造形活動が展開できるよう、基礎的な造形能力を養う。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	子どもの表現理解と援助	○子どもの発達に配慮した援助をおこなうために
2		○活動の留意点と評価について
3	実習（幼稚園・保育所）に向けて	○遊びを豊かにするプログラム （実習先の実態を考慮し、環境や季節に合った造形遊びについて工夫する）
4		
5		
6		
7	造形的な総合活動（制作と表現）	○選択課題（エプロンシアター、パネルシアター、大型スケッチブックシアター他） ※個人の実習計画の下、複数の制作可
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		○作品の発表と鑑賞
21	造形基礎演習	○版　画　演　習（紙版画、スチレン版画、ステンシル等）
22		
23		
24		
25		
26		○触感素材（紙粘土、小麦粉粘土、新聞紙+和紙等）を使った立体造形演習
27		
28		
29		
30		

定期試験	なし
テキスト	「０・1・2歳児の造形あそび」奥 美佐子 著 ひかりのくに
参考図書	適宜紹介する。
教員の評価方法	準備忘れ物状況を含めた授業態度（20%）、課題に対しての制作意欲・創意工夫（自己評価）を加味した作品からの評価（80%）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	常に保育現場で活用することを意識して課題制作に取り組むこと。又、各自の実習予定と照らし合わせ制作を進め、提出期日は厳守すること。(選択課題の制作時間は、時間外として全30時間程度)

音楽表現Ⅰ	1年　前期・後期 卒必　幼必　保必	演習2単位	担当教員名	古溝　徹・北村　裕子・星　律子

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ　:ピアノに関する基礎の知識と実践

② 目標　・ピアノ演奏の基礎を習得する。

・簡単な曲をピアノで演奏する。

・簡単な童謡の弾き歌いが出来るようにする。

授業の概要

ここでは、ピアノを演奏するための基礎を、実際にピアノを使いながら、習得する。ピアノの演奏能力には個人差があるので それぞれの学生に合った教材を選び、マンツーマンでのレッスンの形態をとる。 最終的には、音楽Ⅱでの「童謡の弾き歌い」を出来る事が目標となるが、ここではその前段階としての、ピアノ関する知識（指番号や鍵盤の位置等）や技術を学ぶ。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	ピアノ実技の活動計画	学生からピアノの経験を聞き取り、それを基にグループ分けをする。
2	ピアノ実技	・基礎的な読譜力と技術を身につけることを目的とした個人レッスン ・ピアノの実技に関しては、個人個人の実力の差が著しいため初級、中級、上級の三つのクラスに分け、さらにそれぞれの学生に合った教材で、ピアノの基礎的な技術を修得していく。 ・初級はバイエル40～60番台 ・中級はブルグミュラー25の練習曲、前半位まで ・上級はギロック子供のためのアルバムから、比較的やさしいもの
3	ピアノ実技	
4	ピアノ実技	
5	ピアノ実技	
6	ピアノ実技	
7	ピアノ実技	
8	ピアノ実技	
9	発表会Ⅰ	これまでの成果を全員の前で発表する
10	ピアノ実技	・さらなる読譜力と技術を身に付けるための個人レッスン ・初級、バイエル70～100番台 ・中級、ブルグミュラー25の練習曲、後半 ・上級、ギロック子供のためのアルバムから、比較的難しいもの
11	ピアノ実技	
12	ピアノ実技	
13	ピアノ実技	
14	ピアノ実技	
15	まとめ	実技試験に向けたまとめ
16	指遊び手遊び	楽譜を読み、曲とあて振りを覚える。
17	ピアノ実技及び歌唱	・前期に習得したピアノの技術をもとに、実際に保育所や幼稚園で使われるであろう曲の弾き歌いの練習。 ・「おべんとう」「おかえりのうた」「朝の歌」等それぞれのレベルに合わせた教材を使い、またそれぞれのレベルに合った伴奏法も学ぶ。
18	ピアノ実技及び歌唱	
19	ピアノ実技及び歌唱	
20	ピアノ実技及び歌唱	
21	ピアノ実技及び歌唱	
22	ピアノ実技及び歌唱	
23	ピアノ実技及び歌唱	
24	発表会Ⅱ	これまでの成果を全員の前で発表する
25	リトミック理論と実践	リトミックとはどのような物なのか、実践しながら学ぶ
26	ピアノ実技及び歌唱	・それぞれのレベルに合った童謡などを使って、弾き歌いの個人レッスン ・季節の歌や、２年前期で行われる教育実習で使用する歌を想定して初級は3～5曲、中級は5～7曲、上級は１０曲位をめやすに個人レッスンを進めていく。
27	ピアノ実技及び歌唱	
28	ピアノ実技及び歌唱	
29	ピアノ実技及び歌唱	
30	まとめ	実技試験に向けたまとめ
定期試験	童謡等の弾き歌いによる実技試験	
テキスト	こどものうた100	
参考図書	特になし	
教員の評価方法	学習態度(20%)、実技試験(80%)の総合で判断	
準備学習等履修上の留意点	次のレッスンまで、1時間以上(1日10分以上×6)復習及び予習をすること。	

音楽表現Ⅱ	２年　　前期・後期 卒選　幼選　　保選	演習2単位	担当教員名	古溝　徹・北村　裕子・星　律子

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ　:ピアノ弾き歌いに関する知識と技術

② 目標　・ピアノによる弾き歌いが出来る

・初めての曲でも楽譜があれば弾き歌い出来る

授業の概要

ここでは音楽表現Ⅰで身に付けた知識と技術をもとに、実際に保育所や幼稚園等でよく歌われるであろう曲の中から、何曲 かを抜粋して、ピアノによる弾き歌いが出来るようにする。教科音楽と音楽表現Ⅰと合わせ、出来るだけ多くの曲を習得するように努力し、最終的には初めての曲でも楽譜があれば 弾き歌いが出来るようにする。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	ピアノ実技	発声法の基礎を学び、弾き歌いを実践する。 それぞれのレベルに合った童謡等の弾き歌い。 さらに、教育実習に向けて、それぞれの実習先で使用する曲の練習。 （のの様の歌、瞑想の曲、お眠りの曲、賛美歌等）
2	ピアノ実技	
3	ピアノ実技	
4	ピアノ実技	
5	ピアノ実技	
6	ピアノ実技	
7	ピアノ実技	
8	発表会	これまでの成果を全員の前で発表
9	ピアノ実技	課題曲数曲を使った個人レッスン。 弾ける曲のレパートリーをできるだけ増やす。 ここでは、一年を通した季節の歌を中心にそれぞれのレベルに合ったものを選択し練習する。
10	ピアノ実技	
11	ピアノ実技	
12	ピアノ実技	
13	ピアノ実技	
14	ピアノ実技	
15	まとめ	前期試験にむけたこれまでのまとめ
16	ピアノ実技	課題曲数曲を使った、個人レッスン 音楽表現Ⅱ-1に引き続き、季節の歌や行事の歌等を使い、レパートリーを増やす。 さらに楽譜や歌詞から読み取れる感情や情景を表現する。
17	ピアノ実技	
18	ピアノ実技	
19	ピアノ実技	
20	ピアノ実技	
21	ピアノ実技	
22	ピアノ実技	
23	発表会	これまでの成果を全員の前で発表
24	ピアノ実技	就職に向け実際に現場で使用されるであろう、アニメの主題歌や、歌謡曲などにも踏み込んで、就職試験も視野にいれ、ピアノの技術の向上と、音楽的な感性を磨く。
25	ピアノ実技	
26	ピアノ実技	
27	ピアノ実技	
28	ピアノ実技	
29	ピアノ実技	
30	まとめ	後期試験にむけた、まとめ
定期試験	15コマ終了後、及び30コマ終了後に定期試験を実施する。	
テキスト	「歌って弾こう」「こどものうた200」他	
参考図書	特になし	
教員の評価方法	学習態度(20%)、実技試験(80%)の総合で判断	
準備学習等履修上の留意点	その日にレッスンを受けたものを、次回までに出来るようにしておく。(1時間)	

身体表現	２年　　前期・後期 卒必　　幼必　　保必	演習２単位	担当教員名	北澤　和美

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：身体表現の基礎技術、援助方法を身につける。

② 目標　・幼児の豊かな感性や創造性を伸ばし、自己を育てるための援助の方法を、主に身体活動による実技を通して考える。

・表現する楽しさを味わい、自己表現力を高める。

授業の概要

身体のいろいろな部分を自由に動かす能力、表現方法、創作能力を身につけ、全身で表現する楽しさを体験しながら、自己表現力を高めると共に、リズムダンスや表現に関する遊びの体験と指導法を考える。

授業計画

コマ(回)	項　　目	内　　容	
1	オリエンテーション	身体表現について（ねらいと内容）	
2	身体表現を楽しむ	子どもの動き　音楽と動き	
3		動きを楽しむ（既成のダンス）	
4	リズム遊びをする	リズム遊び	模擬授業
5		リズム遊び（道具を使って）	模擬授業
6		リズム遊び（ゲーム）	模擬授業
7	身体表現の基礎運動	歩行・基本ステップ	模擬授業
8		発達と身体の動き、基本ステップ	模擬授業
9		発達と身体の動き、基本ステップ	模擬授業
10	表現力を探る	動きのスケッチ（鏡、影）	模擬授業
11		動きのスケッチ（動物、植物）	模擬授業
12		動きのスケッチ（自然）	模擬授業
13		動きのスケッチ（生活場面）	模擬授業
14	動きの発展や表現の引き出し方	言葉かけと動きの関係	模擬授業
15		言葉かけと動きの関係	模擬授業
16		言葉かけと動きの関係	模擬授業
17		言葉かけと動きの関係	模擬授業
18	表現方法	音楽にあわせて、即興での創作	
19		音楽にあわせて、即興での創作（グループ）	
20		音楽にあわせて、即興での創作（グループ）	
21	ダンス創作活動１	テーマの決定　動きのイメージ（グループ活動）	
22		創作活動	
23		創作ダンスの発表（表現の違い１）	
24	ダンス創作活動２	テーマの決定　動きのイメージ（グループ活動）	
25		創作活動	
26		創作ダンスの発表（表現の違い２）	
27	ダンス創作活動３	テーマの決定　動きのイメージ（グループ活動）	
28		創作活動	
29		創作ダンスの発表（表現の違い３）	
30	まとめ	創作ダンスの発表（卒業発表に向けて）	
定期試験	定期試験は実施しない。		
テキスト	「保育表現技術～豊かに育つ・育てる身体表現～」ミネルヴァ書房		
参考図書	「さくら・さくらんぼのリズムとうた」斎藤公子著　群羊社		
教員の評価方法	授業態度（30%）、活動状況（40%）、作品発表状況（30%）の総合で評価		
準備学習等履修上の留意点	実技準備を整え・課題をもって授業に出席する。実技演習後は、成果について発表し合ったり実践しあったりする。（１時間）		

教職実践演習	2年　　後期 卒選　幼必　保必	演習2単位	担当教員名	大平雅弘・齋藤亮一

授業の到達目標及びテーマ

① テーマ ：教科・教職の各科目の履修状況を踏まえ、教員としての必要な知識技能を実践的に習得する。

② 目標　　ア　幼稚園教諭・保育士の意義や役割、職務内容、使命感、責任感、教育的愛情に関する事項

① 保育への使命感や情熱をもち、子どもの成長を第一に考えて適切に行動できる。

② 高い倫理観と規範意識、強い意志をもって職責を果たすことができる。

イ　社会性や対人間関係能力に関する事項

① 保育専門職としての職責や義務の自覚に基づき、他の教職員と協力して職務を果たすことができる。

② 保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。

ウ　子ども理解や学級経営に関する事項

① 公平かつ受容的な態度で子どもに接し、発達や状況に応じた適切な指導ができる。

② 子どもとの間に信頼関係を築き、規律ある学級経営ができる。

エ　保育内容の指導力に関する事項

① 保育内容に関する知識や技能、保育を行う上での基本的な表現力を身に付けている。

② 子どもの反応や状況に応じ、保育計画や指導方法などを工夫することができる。

授業の概要

これまでの学びの振り返りを行い、教科・教職科目の知識技能などを確認する。その中で、保育者や教職として必要な資質の課題について、グループ討議を行う。各自の課題テーマに従って課題解決を行うとともに関係する教育機関と連携し実践的に調査、分析・考察を行う。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
1	オリエンテーション、履修カルテの作成、　各自の課題(テーマ)の設定	科目の目標と計画、担当者などについて理解する。履修カルテにより履修状況を確認する。保育に関する各自の課題について検討し、テーマを設定する。
2～3	公開研究会参加	大崎公立幼稚園研究協議会の公開研究会への参加
4	保育専門職の基本	保育専門職に必要な資質能力の土台となる使命感・責任感・愛情及び職務についての講義を受ける。
5	乳幼児理解	乳幼児理解の必要性や方法などについて講義を受け、事例についての討論と発表を行う。
6	幼稚園の学級経営①	現職幼稚園教諭から学級経営等について講義を受ける。
7	幼稚園の学級経営②	上記講義をもとに討議や発表を通して理解を深める。
8	小学校との連携①:生活科	幼小連携での保育活動や小学校教諭の指導等を理解する。
9	小学校との連携②:生活科	小学校1年生生活科の授業に参加し、保育活動のつながり等を探る。
10	運動機能の発達と身体表現	乳幼児の運動機能の発達にあわせた身体表現について理解を深める。
11	各自の課題に沿った調査研究	各自、設定した課題に沿って調査研究を深める。
12	保育現場の音楽活動の理解	音楽専門教員の指導により、音楽分野の保育活動を経験し理解を深める。
13	養護に関する現状の理解	社会福祉施設職員から養護の関する現状と課題等の講義を受ける。
14	各自の課題のまとめ	各自の課題に基づき調査研究したものをレポートにまとめる。
15	学びの振り返り　履修カルテ等のまとめ	保育者して必要な知識技能をどの程度習得できたか、自らの学びを振り返りまとめる。各自の履修カルテで自己評価を行う。
定期試験	特にしない。	
テキスト	特にない。	
参考図書	「教育実習」(ミネルヴァ書房)「教育・保育・施設実習」(建帛社)　参考資料:各種指導案集(図書館)	
教員の評価方法	出席状況(40%)、演習活動の観察評価(30%)、各種作成物の内容及び提出状況(30%)を総合的に評価する。	
準備学習等履修上の留意点	学外での演習活動及び外部講師による講話については、目的・テーマ等について事前に把握して臨む。また、学習活動後に感想等をまとめたり、自己評価をしたりする。(1時間)	

教育実習指導	１年　　前期・後期 卒選　　幼選　　保選	演習２単位	担当教員名	北澤　和美 齋藤　　寧 石森小緒里

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：教育実習の理論と実践を総合的に展開し、幼児教育の実践者としての資質の向上を図る。

② 目標　・教育実習を行うための事前準備（実習の意義、実習協力園の選定等）をする。

・教育実習を行うための基礎的知識（教育実習とは、幼稚園の概要、保育指導計画案の立て方、教育実習の心得等）並びに実践力（模模擬保育等）を身につける。

・観察実習を通して、子ども理解を深めるとともに、幼児の発達段階を理解し、保育者として関わりのの基礎を理解する。

・本実習に向けての自分の課題を探る。

授業の計画　　◎実習協力園　まこと幼稚園　＊観察実習予定期間（２月２０日～２月２６日）

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	オリテーション	・教育実習の意義　　・実習園の選定　　＊実習先希望調査
2	教育実習に向けて①	・幼稚園の概要　　・幼稚園教育要領　　＊実習先希望調査調整
3	教育実習に向けて②	・実習生の声を聞く（教育実習を終了した2年生との情報交換）
4	教育実習に向けて③	・幼稚園教諭免許について　・教育実習の内容と方法　＊実習先の決定
5	指導計画	・教育課程とは　　・指導計画とは
6		・指導計画案の作成（全日）①
7		・指導計画案の作成（全日）②
8	模擬保育	・模擬保育の準備
9		・模擬保育（部分）①
10		・模擬保育（部分）②
11		・模擬保育（部分）③
12		・模擬保育（部分）④
13		・模擬保育のまとめ　　・実習への課題
14	教育実習指導のまとめ	・教育実習指導のまとめ
15		・観察実習に向けて　　・本実習に向けての準備（事前打合せ・準備物）
16	観察実習のオリテーション（事前指導）	・観察実習の意義・目的
17		・観察実習の持ち方
18		・観察実習の準備
19	観察実習	・幼稚園の活動の観察
20		・保育者等の動きや子どもの心身の状況の観察
21		・観察実習の記録のまとめ　反省
22	観察実習	・幼稚園の活動の観察
23		・保育者等の動きや子どもの心身の状況の観察
24		・観察実習の記録のまとめ　反省
25	観察実習	・幼稚園の活動の観察
26		・保育者等の動きや子どもの心身の状況の観察
27		・観察実習の記録のまとめ　反省
28	観察実習のまとめ（事後指導）	・実習日誌の整理
29		・本実習に向けての課題
30		・観察実習のまとめ

定期試験	定期試験は実施しない。
テキスト	幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド　わかば社
参考図書	「幼稚園教育要領解説」文部科学省　「教育・保育・施設実習」：建帛社
教員の評価方法	学習への関心・意欲・態度（20%）、指導案・小論文・提出物（60%）、模擬保育（20%）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	テキストと演習資料に目を通してくること（1時間）、指導案やレポートの提出

教育実習	２年　　前期 卒選　　幼必　　保選	形態 単位数	実習４単位	担当教員名	北澤和美・齋藤寧 石森小緒里

授業(実習)の到達目標及びテーマ

① テーマ：教育の現場の実際に接し、幼児の観察やかかわりを通して、幼児への理解を深め、幼稚園等の役割や機能、幼児教育者の役割や職務内容を具体的に理解する。

② 目標
1　幼稚園等の役割や機能を具体的に理解する。
2　観察や幼児とのかかわりを通して幼児への理解を深める。
3　既習の教科の内容を踏まえ、幼児教育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4　指導計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5　幼児教育者の職務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

教育実習の計画

◎教育実習　　５月２０日(月)～６月１４日(金)　２０日間

1　幼稚園の役割と機能	・幼稚園の生活と一日の流れ　・幼稚園指導要領の理解と保育の展開
2　幼児理解	・幼児の観察、記録による理解　・幼児の発達過程の理解　・特性に応じた幼児への指導
3　教育内容・教育環境	・指導計画、発達過程に応じた指導内容　・幼児の生活・遊びと教育環境　・幼児の健康と安全
4　教育の計画、観察、記録	・教育課程・指導計画の理解と活用　・記録に基づく省察・自己評価
5　専門職としての幼児教育者の役割と職業倫理	・幼児教育者の職務内容　・職員間の役割分担や連携　・幼児教育者の役割と職業倫理

テキスト	「教育実習の手引き」宮城県幼稚園教育実習連絡協議会　　「幼稚園指導要領解説書」文部科学省
参考図書	「教育・保育・施設実習テキスト」健帛社
教員の評価方法	各実習先の実習評価、各実習日誌等を基にして評価
準備学習等履修上の留意点	教育実習の準備、振り返りを演習の前後に１時間取り組む。

教育実習 事前事後指導	２年　　前期 卒選　　幼必　　保選	演習１単位	担当教員名	北澤　和美 齋藤　　寧 石森小緒里

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：教育実習の理論と実践を総合的に展開し、幼児教育の実践者としての資質の向上を図る。

② 目標　・教育実習を行うための事前準備（実習調書等の準備、実習協力園との打合せ等）をする。

・教育実習を行うための基礎的知識（保育指導計画案の立て方、実習生の心得、模擬保育等）の確認する。

・本実習に向けての自分の課題を探る。

・実習で気づいた課題を振り返り、その解決を探る。

授業（観察実習）の計画

◎実習協力園　まこと幼稚園

コマ(回)	項　　目	内　　容
1	オリエンテーション	・教育実習の意義　・観察実習から学んだこと　・実習調書等の準備①
2	教育実習に向けて①	・実習への課題　・幼稚園教育要領　・実習先への送付資料の準備②
3		・実習生心得　・実習先への送付資料の準備③
4		・指導計画案の作成（全日）①
5	指導計画	・指導計画案の作成（全日）②　・模擬保育の準備
6		・模擬保育（部分）①
7	模擬保育	・模擬保育（部分）②
8		・模擬保育（部分）③
9		・模擬保育（部分）④
10	教育実習に向けて②	・模擬保育の反省と課題（私の決意）　・教育実習の準備
11	教育実習を振り返って	・実習を振り返って（幼稚園教育実習反省・評価）　・礼状作成
12		・教育実習を振り返って（１年生との情報交換）
13		・実習新聞の原稿等作成
14		・自己評価表作成　・教育実習中の指導計画案の整理
15	教育実習のまとめ	・教育実習のまとめ（小論文）

定期試験	定期試験は実施しない。
テキスト	幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド　わかば社
参考図書	「幼稚園教育要領」　文部科学省　「教育・保育・施設実習」:建帛社
教員の評価方法	学習への関心・意欲・態度（20%）、指導案・小論文・提出物（60%）、模擬保育（20%）の総合で評価
準備学習等履修上の留意点	テキストと演習資料に目を通してくること（１時間）、指導案やレポートの提出

保育実習Ⅰ	２年　　前期 卒選　　幼選　　保必	形態 単位数	実習４単位	担当教員名	齋藤亮一・鈴木永二 大平雅弘・小玉幸助

授業(実習)の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：保育現場の実際に接し、子ども(利用者)の観察やかかわりを通して、子ども(利用者)への理解を深め、実習施設機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解する。

② 目標　　1　保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。

2　観察や子ども(利用者) とのかかわりを通して子ども(利用者)への理解を深める。

3　既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。

4　保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。

5　保育士の職務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業(実習)の計画

◎保育実習Ⅰ・・・・・保育所実習（２単位）　　７月８日(月)～７月２２日(月)　１０日間

1　保育所の役割と機能	・保育所の生活と一日の流れ　・保育所保育指針の理解と保育の展開
2　子ども理解	・子どもの観察、記録による理解　・子どもの発達過程の理解　・子どもへの援助やかかわり
3　保育内容・保育環境	・保育の計画、発達過程に応じた保育内容　・子どもの生活・遊びと保育環境　・子どもの健康と安全
4　保育の計画、観察、記録	・保育課程・指導計画の理解と活用　・記録に基づく省察・自己評価
5　専門職としての保育士の役割と職業倫理	・保育士の職務内容　・職員間の役割分担や連携　・保育士の役割と職業倫理

◎保育実習Ⅰ・・・・・施設実習　（２単位）　　９月１７日(火)～９月２８日(土)　１０日間

1　施設の役割と機能	・施設の生活と一日の流れ　・施設の役割と機能
2　子ども(利用者)理解	・子ども(利用者)の観察、記録による理解　・個々の状態に応じた援助やかかわり
3　養護内容・生活環境	・計画に基づく活動や援助　・子ども(利用者)の心身の状態に応じた対応　・子ども(利用者)の活動と生活の環境　・健康管理、安全対策の理解
4　計画、観察、記録	・支援計画の理解と活用　・記録に基づく省察・自己評価
5　専門職としての保育士の役割と職業倫理	・保育士の職務内容　・職員間の役割分担や連携　・保育士の役割と職業倫理

テキスト	「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会　　保育所保育指針解説書
参考図書	「教育・保育・施設実習テキスト」健帛社
教員の評価方法	各実習先の実習評価(保育所・施設)、各実習日誌等を基にして評価
準備学習等履修上の留意点	各授業（実習）の準備、振り返りに１時間取り組む。

保育実習指導Ⅰ	１年　　後期 卒選　　幼選　　保必	演習１単位	担当教員名	齋藤亮一・鈴木永二 大平雅弘・小玉幸助

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：保育実習(含施設実習)の意義・目的を理解し、既習の教科内容との関連性を踏まえ、保育について総合的に学び、保育実践力を培う。

② 目標　・保育実習(含施設実習)の意義、目的、内容、実習記録、指導案の書き方を理解し、各自目標を持って実習ができるように課題を明確にする。

・子どもの発達過程を理解し、そのことを生かした、実習記録・指導案作成・子どもとのかかわりができる保育実践力を身につける。

・保育士の専門性と職業倫理についての理解を深める。

授業の概要

習得した教科内容の知識・技能を踏まえて保育の理論と実践について具体的に学習し、実習に向けて、保育士としての実践力を身につけるようにする。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
第１回	保育実習指導の概要のオリエンテーション	・保育実習(含施設実習)の意義・目的の理解 ・保育実習(含施設実習)のスケジール（プロセス・日程等）
第２回	保育所実習の概要	・保育所の概要を通しての子どもの保育と保護者支援についての理解
第３回	乳幼児理解について	・子どもの発達過程の理解
第４回	乳幼児理解について	・子どもの発達過程の理解
第５回	保育における子どもとのかかわり	・子どもとのかかわりで予想される子どもの活動・行動への対処のあり方
第６回	保育における子どもとのかかわり	・子どもとのかかわりで予想される子どもの活動・行動への対処のあり方
第７回	保育所実習の内容	・保育所実習の段階とその内容の理解
第８回	指導計画の理解	・指導計画ー長期の指導計画・短期の指導計画、日誌の書き方・記入の仕方
第９回	指導計画の作成	・日誌の書き方・記入の仕方
第１０回	指導計画の作成	・部分実習案を事例をもとに作成
第１１回	指導計画の作成	・部分実習案を事例をもとに作成 ・全日実習指導案を事例をもとに作成
第１２回	施設実習の概要	・児童福祉施設等の役割や機能についての理解
第１３回	施設実習の内容	・施設実習の段階とその内容の理解、障がい者(児)の権利と関連する法律について
第１４回	保育における表現技術の実践	・さまざまな表現の方法の実践
第１5回	保育士に求められるもの	・保育士の専門性と職業倫理
定期試験	定期試験なし	
テキスト	「教育・保育・施設実習テキスト」　建帛社	
参考図書	保育所保育指針解説書、「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会	
教員の評価方法	学習への関心・態度（３０％）、指導案等の課題（７０％）から総合的に評価する。	
準備学習等履修上の留意点	授業後の課題、次時の予習に１時間取り組む。	

保育実習Ⅱ	２年　　前期 卒選　　幼選　　保必	形態 単位数	実習２単位	担当教員名	齋藤亮一・鈴木永二

授業(実習)の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：これまで習得した教科全体の知識、技能を基にし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、保育実習Ⅰを踏まえ、子どもに対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。

② 目標　１　保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。

２　子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。

３　既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。

４　保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。

５　保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。

６　保育士としての自己の課題を明確化する。

授業(実習)の計画

◎保育実習Ⅱ・・・保育所実習（２単位）　　７月２９日(月)～８月９(金)　１０日間

１　保育所の役割や機能の具体的展開	・養護と教育が一体となる保育　・保育所の社会的役割と責任
２　観察に基づく保育理解	・子どもの心身の状態や活動の観察　・保育士等の動きや実践の観察　・生活の流れや展開の把握
３　子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解　・保護者支援及び地域の子育て家庭への支援　・地域社会との連携
４　指導計画の作成、実践、記録、評価	・指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解　・作成した指導計画に基づく保育実践と評価
５　保育士の職務と職業倫理	・多様な保育の展開と保育士の職務　・多様な保育の展開と保育士の職業倫理
６　自己の課題の明確化	・保育士としての自己の課題の明確化

テキスト	「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会　　保育所保育指針解説書
参考図書	「教育・保育・施設実習テキスト」健帛社
教員の評価方法	実習先の実習評価、実習日誌等を基にして評価
準備学習等履修上の留意点	授業（実習）の準備、振り返りに１時間取り組む。

保育実習指導Ⅱ	２年　　前期・後期 卒選　　幼選　　保必	形態 単位数	演習２単位	担当教員名	齋藤亮一・鈴木永二 大平雅弘・小玉幸助

授業の到達目標及びテーマ

① ﾃｰﾏ　：保育実習の意義・目的・実習の内容を理解し、課題を持ち、実習を体験し、新たな課題や目標を明確にする。

② 目標　・実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識，援助技術を理解し、実習に生かすことができる。

・保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続等についての理解を深める。

・実習施設における子どもの人権と最善の利益を考慮し，プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。

・保育実習を体験し、その反省を踏まえ、新たな課題や目標を明確にし、課題解決の学習に取り組んでいく。

授業の概要

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習目標・課題を明確にするととに、保育実習の位置づけ、各保育実習の福祉施設の目的や保育士の保育の基本・業務などを学び、実習に際して、事前・事中・事後においてなすべき内容を理解し、保育実習の全体を把握する。

授業計画

コマ	項　　目	内　　容
第１回	保育実習指導の概要のオリエンテーション	・保育実習の意義・目的・内容の理解 ・保育実習の年間プロセス・手続・日程の確認
第２回	保育所実習事前訪問の目的と方法	・実習先事前訪問の目的・方法・内容、心構え ・実習先の実習受け入れ体制
第３回	保育所実習の内容と方法	・観察・参加・責任実習の各方法の目的・内容の理解
第４回	保育所実習の内容と方法	・実習指導計画の立て方、実習記録の目的・方法
第５回	部分・責任実習の内容と方法	・保育所（園）の1日の流れと保育士の活動 ・部分案・日案・月案の理解と作成
第６回	部分・責任実習の内容と方法	・部分実習指導案、全日指導案の作成
第７回	実習での基本姿勢	・実習の心構えと実習先から求められる実習姿勢
第８回	施設実習での意義と内容	・福祉施設の分類・各施設の特色と相違点
第９回	施設実習での意義と内容	・施設実習の意義と内容の理解
第１０回	施設実習事前訪問の目的と方法	・実習先事前訪問の目的・方法・内容、心構え ・実習先の実習受け入れ体制
第１１回	施設実習の内容と方法	・施設実習の捉え方、学習の形態と対象
第１２回	施設実習の内容と方法	・勤務者としての心構え、見学・観察・参加・部分・全日実習について
第１３回	施設実習の内容と方法	・施設養護における処遇の展開、記録・日誌の意味と方法
第１４回	実習直前指導（保育所）	・各自にとっての保育所実習の意義の明確化 ・実習に向けての最終確認と終了後の手続について
第１5回	実習直前指導（施設）	・各自にとっての施設実習の意義の明確化 ・福祉施設労働の意味　施設児の周辺　最終確認と終了後の手続について
第１６回	事後指導	・実習で実践したことをまとめる。 （保育所・施設実習を終えての反省と感想、今後の課題と目標）
第17回	事後指導	・実習を終えてのレポート作成（保育所）　・実習新聞の作成
第18回	事後指導	・実習を終えてのレポート作成（施設）　・実習新聞の作成
第19回	事後指導	・実習新聞の作成
定期試験	定期試験なし	
テキスト	「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会、「教育・保育・施設実習テキスト」健帛社	
参考図書	保育所保育指針解説書	
教員の評価方法	学習への関心・態度（２０％）、指導案、レポート、実習新聞等の課題の内容（８０％）により総合的に評価	
準備学習等履修上の留意点	授業後の課題、次時の学習準備に1時間取り組む。	